P.2 ご挨拶

P.4 豊岡演劇祭 2020 フリンジについて

P.5 会場一覧

P.8 竹野エリア

ブルーエゴナク『ザンザカと遊行』 ……P.9

Aokid ×たくみちゃん『MOVE-MOV(I)E MEN-MENT!!!!』 ……P.11

敷地理『blooming dots』 ……P.12

京極朋彦ダンス企画『竹野町 猫町ウォーキング』 ……P.13

P.14 城崎エリア

to R mansion『街角の恋人〜湯けむりサーカス編〜』 ……P.15

和田華子『LGBTQ 勉強会』『俳優・劇作家・演出家・制作者に向けた LGBTQ 勉強会』 ……P.17

天明留理子（旭堂南明）『城崎で聴く怪談話』 ……P.18

小菅紘史×中川裕貴『山月記』 ……P.19

塚越ピカル『Living Statue』 ……P.20

P.21 豊岡市街地エリア

知念大地『続・ひしと』 ……P.22

日坂春奈『かみしばいや』 ……P.24

P.25 日高／江原エリア

越後正志『観測地点』 ……P.26

劇団普通『電話』 ……P.28

広田ゆうみ + 二口大学『いかけしごむ』 ……P.29

一般社団法人ダンストーク『マジな性教育マジか』by 康本雅子 + 池上恵一 ……P.30

「老いと演劇」OiBokkeShi『老いと演劇のワークショップ』 ……P.31

to R mansion『DIVE/JOURNEY（ダイブジャーニー）』 ……P.32

うさぎストライプ『ゴールデンバット』 ……P.33

山川陸 (山川陸設計)『三度、参る』 ……P.34

P.35 日高／神鍋エリア

theater apartment complex libido:『libido:AESOP 0.9』 ……P.36

スペースノットブランク『ラブ・ダイアローグ・ナウ』 ……P.38

P.39 但東エリア

烏丸ストロークロック『「但東舞堂考」に向けて 〜豊岡市但東地域の営みと舞台芸術のリサーチ〜』 ……P.40

P.42 オンライン

竹中香子『「民主的演技」を考えるワークショップミーティング』 ……P.42

劇作家女子会。『劇作家による著作権との付き合い方勉強会：死後のライセンスについて』 ……P.43

P.44 あとがき

P.50 公式プログラム上演記録

P.52 演劇祭と街の風景

豊岡演劇祭 2020　フェスティバルディレクター
平田オリザ

フランスでは、すべての小学校の壁に「自由・平等・博愛」の文字が刻まれています。自由と平等という、ときに矛盾する概念の懸け橋に「博愛」という、なんだかふんわりしたものを置いたところにフランス革命の知恵がありました。

演劇祭における「フリンジ」とは、公式に対する非公式、中央に対する周辺を意味します。欧州の多くの演劇祭は、正式招待演目とは別に自由参加型の「フリンジ」（「オフ」と呼ばれることもあります）という制度を設定しています。このフリンジの魅力は、制度に縛られず、自由にそこに集まり、また去って行く点にあるとも言えるでしょう。

海外の演劇祭、とりわけアヴィニヨンのような大きな演劇祭は、弱肉強食の世界です。フリンジで集まった多くの集団のうち、限られた者のみが、やはり世界中から集まってきたプロデューサーやプログラムディレクターに見いだされ、他の幾多の演劇祭に買い取られていきます。すなわちフリンジの制度は、見本市的な性格も含んでいるわけです。

当然、観客が思うように集まらず、開催期間中に撤退していくカンパニーも見られます。この自由競争のダイナミズムそのものが、欧州のフェスティバルシステムの一つの魅力となっています。

しかし、日本の多くの若い演劇人は、ここで疑問に思うことがあるでしょう。日本で同じことをしても、そもそもスタートラインが違うではないかと。

たしかにアヴィニヨンのフリンジでさえも、資金力のある団体は恵まれた上演会場を占有するなどして有利に事を運ぶ傾向はあります。しかし、ヨーロッパでは、多くの場合、どんなに小さな団体でもなんらかの形の公的な支援を受けており、またセルフプロデュースやプロモーションのための教育も受けている。すなわち、実力に見合ったステップアップの道筋だけは、用意されているということです。彼我の差は、思いのほか、大きいのです。

今回のウイルス禍と、その後の文化支援を巡る議論で明らかになった問題の一つは、日本の文化政策の中心が「申請主義」であり、書類の書き方がうまい、あるいは慣れている団体ほど支援を受けやすい状況にあるという点でした。これを自己責任と言うには、日本のアートマネジメント教育の環境はあまりに脆弱です。

そこで、「進化する演劇祭」を標榜する豊岡演劇祭は、日本に、真のフリンジ型のフェスティバルが定着するまでの間、積極的なフリンジ支援、公演会場とのマッチングなどのサポートを進めていくこととしました。

芸術の世界ですから、結果の平等はまったく必要ないと私は考えています。残酷なまでの競争と淘汰のシステム、そして、そのための場を用意するのがフェスティバルディレクターの役割です。しかし、日本において、若いアーティストたちに機会の平等を保証することは非常にむずかしい。豊岡演劇祭が、その一助になればと願っています。

すべてのアーティストは、才能の下に平等である。

豊岡演劇祭のフリンジ部門が目指す到達点は、そこにあります。

また、特に本年は、ウイルス禍で上演中止や延期を余儀なくされた団体などを優先的に支援してきました。もちろん、選定にあたっては、その将来性や演劇祭での上演の効果を、もっとも重要な評価の軸としたうえで、今年の特殊性も加味した選定となりました。

豊岡演劇祭は「対話する演劇祭」でもあります。公式プログラムにもいくつものカンファレンスが企画されましたが、フリンジの対象も上演だけではなくワークショップやシンポジウムが含まれたのも、本演劇祭の大きな特徴となったかと思います。

さらに、豊岡演劇祭は、「進化する演劇祭」「対話する演劇祭」であると同時に、「連帯する演劇祭」を目指します。自由と平等という、ときに矛盾する概念を、私たちはアーティスト同士の「連帯」によって乗り越えたいと考えます。

私の少ない経験においても、国際演劇祭に参加する醍醐味の一つは、アーティスト同士が友情を培う場だという点です。

豊岡演劇祭では、国内外から集まってきたアーティスト、観客、そしてそれを繋ぐ学術や批評、ジャーナリズムの関係者が、夜には一同に集い、その日に観た舞台について語り、明日観る舞台について期待を寄せる、そんなフェスティバルカフェを開きたいと考えてきました。今年は新型コロナウイルスの影響で、これも大幅縮小になってしまいましたが、来年度以降はさらに発展させていきたいと考えています。

フリンジに参加するすべての団体が、この豊岡で、終生のよきライバルを見つけられることを願っています。

FRINGE

【フリンジとは】

フリンジの直訳は「周辺」。フェスティバルは招聘や提携のプログラムを中心として開催されますが、その周りで自発的に行われている公演形式をフリンジといいます。

【特徴】

- 採択団体には最大 50 万円までの制作支援金をサポート

- 企画内容に合わせて、コーディネーターが会場・宿泊所をマッチング

【応募期間】

フリンジ公募期間：
2020 年 7 月 1 日 (水)~7 月 14 日 (火)

オンライン説明会：
2020 年 7 月 11 日 (土)18:00~19:30

採択結果発表：
2020 年 7 月 31 日 (金)

【応募総数】

65 団体

【採択数】

23 団体

【動員数】

1,963 名（延べ）

【参加アーティスト】

演劇

ブルーエゴナク『ザンザカと遊行』…P.9 ❶
小菅紘史×中川裕貴『山月記』…P.19 ❸
日坂春奈『かみしばいや』…P.24 ⓫⓬
劇団普通『電話』…P.28 ⓮
広田ゆうみ + 二口大学『いかけしごむ』…P.29 ⓮
うさぎストライプ『ゴールデンバット』…P.33 ⓯
theater apartment complex libido:『libido:AESOP 0.9』…P.36 ⓱
スペースノットブランク『ラブ・ダイアローグ・ナウ』…P.38 ⓲

ダンス

Aokid ×たくみちゃん『MOVE-MOV(I)E MEN-MENT!!!!』…P.11 ❷❸❹
敷地理『blooming dots』…P.12 ❻
京極朋彦ダンス企画『竹野町 猫町ウォーキング』…P.13 ❺

リーディング

天明留理子（旭堂南明）『城崎で聴く怪談話』…P.18 ❾

大道芸

塚越ピカル『Living Statue』…P.20 ❿⓯
知念大地『続・ひしと』…P.22 ❶⓫⓬⓯

回遊パフォーマンス

to R mansion『街角の恋人～湯けむりサーカス編～』…P.15 ❿

フィジカルコメディ

to R mansion『DIVE/JOURNEY（ダイブジャーニー）』…P.32 ⓭

フィールドワーク

山川陸 (山川陸設計)『三度、参る』…P.34 ⓰

インスタレーション

越後正志『観測地点』…P.26 ⓰

トーク

鳥丸ストロークロック『「但東舞堂考」に向けて ～豊岡市但東地域の営みと舞台芸術のリサーチ～』…P.40 ⓳

ワークショップ

一般社団法人ダンストーク
『マジな性教育マジか』by 康本雅子 + 池上恵一…P.30 ⓮
「老いと演劇」OiBokkeShi『老いと演劇のワークショップ』…P.31 ⓭
竹中香子『「民主的演技」を考えるワークショップミーティング』…P.42

勉強会

和田華子『LGBTQ 勉強会』『俳優・劇作家・演出家・制作者に向けた LGBTQ 勉強会』…P.17 ❼
劇作家女子会。『劇作家による著作権との付き合い方勉強会：死後のライセンスについて』…P.43

竹野エリア

❶奥城崎シーサイドホテル 敷地内
❷鷹野神社
❸竹野浜
❹但馬漁業協同組合 竹野支所
（有限会社松正漁業船上）
❺但馬漁業協同組合 竹野支所
および 竹野浜周辺
❻奥城崎シーサイドホテル宴会場

城崎エリア

❼城崎国際アートセンター スタジオ 1
❽城崎温泉 温泉寺 薬師堂
❾城崎文芸館
❿木屋町小路周辺

豊岡市街地

⓫豊岡市役所本庁舎前市民広場

但東エリア

⓳但東町全域

日高・江原エリア

⓬江原河畔劇場前広場
⓭日高文化体育館
⓮ワークピア日高
⓯江原駅前イベント広場
⓰江原駅周辺

日高・神鍋エリア

⓱アップかんなべ中央グラウンド
⓲アップかんなべ中央ゲレンデ

P.11

P.15

that much difference
between them.
P.18

EBST
P.22

豊岡演劇祭 Toyooka Theater Festival
P.36

P.13

P.33

P.32

P.13

P.19

P.26

P.12

P.9

P.28-29

豊岡演劇祭2020 9/9(水)-22(日) Toyooka Theater Festival

P.38

江原河畔劇場
江原河畔劇場
P.24

P.34

P.20

竹野エリア
Takeno

ブルーエゴナク『ザンザカと遊行』
Aokid ×たくみちゃん『MOVE-MOV(I)E MEN-MENT!!!!』
敷地理『blooming dots』
京極朋彦ダンス企画『竹野町 猫町ウォーキング』

豊岡市の北部から西部に位置する竹野町（たけのちょう）は、日本の渚 100 選にも選ばれた竹野浜海水浴場を中心に作品が発表されました。
海岸周辺に広がる焼杉板の町並みを抜けてひろがる約 1km にもおよぶ白い砂浜では、カヌー、ダイビング、猫崎半島のトレッキングなどさまざまなアクティビティも豊富です。
竹野町では 2021 年に創業 50 周年を迎える「奥城崎シーサイドホテル」をはじめ、竹野の名前の由来にもつながる鷹野神社など、海と共に暮らす風情ある町並みを背景にしたリサーチが行われました。

8 月 16 日。
豊岡市地域おこし協力隊であり演劇祭事務局の酒井君の車で、初めて竹野町に入った。それから本番までの約 1 ヶ月の滞在期間を振り返ることで、『ザンザカと遊行』の創作ノートとする。

少し遡って 7 月 28 日。
自身の劇団〈ブルーエゴナク〉では、新型コロナウイルス感染症対応に伴い、本公演のツアー全日程を延期とすることを決定した。おかげでぽかんと空いた夏〜秋の期間を、いかに有効に過ごすか、どういう時間にするかを考えていた。
その選択肢の中にはもちろん〈何もしない、あるいは趣味に没頭するための休暇〉も候補としてあったし、当時のコロナの状況において、演劇そのものに（関わり方や形式性も含めて）向き合う徒労感のようなものの払拭されなさは、自身にとっても前向きに演劇に関わる判断を鈍らせていた。

そのほぼ同時期に豊岡演劇祭 2020 フリンジプログラムの公募が発表された。
候補会場のほとんどが劇場ではなく、会館や広場のような場所、また感染症対策もあってか屋外の会場に重点がおかれているような印象だった。
そのひとつに、足場と呼ぶにはやや危なっかしい凹凸の岩場があって、その奥に広がる海と山々を借景とした〈奥城崎シーサイドホテルの敷地内〉という会場候補があった。
「今、ここでなら演劇ができるかもしれない」という直感が働いて、また先行きの見えない滞った生活から抜け出したい思いもあって、竹野町での 1 ヶ月間のリサーチ型の滞在制作の企画を決めた。

それで 8 月 16 日、竹野町に到着する。それまでの準備はかなり足早に進められた。
滞在期間の前半は竹野町の歴史や言い伝え、風習などをリサーチする期間が続いた。
同月 9 日に城崎在住の松井敬代さんにお話をお聞きしていたこともあり、民俗的なテーマにある程度焦点を絞れていたことも大きかった。
リサーチは進むにつれて、主に「民謡」「信仰」「儀礼」の 3 つに分かれ、それは各地域で聞いた話とそれぞれ紐づいている。
下町区長・與田政則さんへの取材を元に、竹野相撲甚句や竹野町盆踊り、竹野町小唄などの民謡から歴史を遡った竹野浜地区。
松永正博さんへの取材で伺った何万年前からの史実から、今もこの土地に残るアニミズム［精霊信仰］、シャーマニズムに触れた中竹野地区。
また、竹野南地区では三原区長・茨木光男さんへの取材の中で、野の人を始めとする三原地区の儀礼の数々、また山中の集落の生活様式を知った。

そしてその 3 つのテーマは、それぞれ〈見えないもの（物／者）への態度〉であることが分かってきた。
それは霊的なものだけではない。歩道を横切る沢蟹が、側溝の隙間に入り込み見えなくなっていくことすらも、ある種の神聖さを纏って見える。

海と山に囲まれ、見えない・立ち入ることのできない場所が広大にある。
その漠然とした自然への無力感・緊張感の中での想像力が、この町ならではの風習を生み出して来たのだろう。

それで今作は、些細な罪悪感と些細な信仰心の話になった。
一見軽薄に見える若者（あるいは私自身か）の姿を、されど過酷な時代を生きている（あるいは生きていた）彼らの姿を、この地域を通して見つめ直した時に、微かに香ったものが罪悪感と信仰心だった。
何を抱えて、何を信じるか、息苦しい社会をその二つのフィルターを通して覗いてみるような。
またこの二つに共通することは、そのどちらもが継続によって成り立つということだ。忘れたくても忘れられない自分の中の罪と、それから許されるための祈りは、相互的に依存し、継続を促し合う。

滞在制作はどんな形にせよ地域の養分を吸い取って作品にするという搾取の構造から逃れられない。
またその時に、その地域の方々やあるいはそれからさらに外側の社会が何を望んでいるか、それに応えるだけでは自身の作品になり得ない葛藤もある。
声なき声に耳を傾け、態度、距離、居方、あり方を模索し続けても、それでもこぼれ落ちてしまうものがある。
これも芸術への、罪悪感と信仰心だ。
だけど信じるからには続けなくては、とも思う。
初めて訪れた土地で、少なくない人を巻き込んで作品を作る。作った。
この縁を、またこの上演を、この先も丁寧に紡いでいくことで、それはやがてこの町の習慣になり、いずれ文化になる。
新たな文化を、過去を継承しながら、人と話しながら、人ならざる物を感じ取りながら、作っていくのだ。

コロナ禍において、自分が〈演劇を続ける理由〉の一つを見つけられた滞在制作だった。

最後に、奥城崎シーサイドホテル様、竹野盆踊り振興会様、豊岡演劇祭実行委員会事務局様。
それぞれのお力無くして、このご縁を繋ぐことは出来なかったと強く実感しています。
改めてここに最大の感謝をいたします。

穴迫信一

ブルーエゴナクによる滞在制作
『ザンザカと遊行』

今作は、北九州拠点の劇団〈ブルーエゴナク〉の作家・演出家である穴迫信一が兵庫県豊岡市竹野町に滞在し、町に残る歴史や言い伝えなどのリサーチを元に新作を執筆し、奥城崎シーサイドホテル敷地内にて屋外上演する演劇プロジェクトです。
その場所に生活の根を下ろすことで、新たな着想を得て、地域に根付く作品を創出します。「いのりとゆるし」をテーマに、未来を見据える寓話的作品を目指します。

公演概要
会場：奥城崎シーサイドホテル敷地内
日程：9 月 10 日（木）～ 13 日（日）

作・演出：穴迫信一
出演：野村明里　大石英史　高野由紀子（演劇関係いすと校舎）
音響：甲田徹
舞台監督：森田正憲（株式会社 F.G.S.）
制作：北村功治
演出助手：鈴木隆太
イラスト：millitsuka
デザイン：SUIMIN TAPE.
制作：ブルーエゴナク／合同会社 kitaya505
助成：公益財団法人セゾン文化財団

ブルーエゴナク
北九州市拠点。地域を拠点に、国内外に通用する新たな演劇作品の創造と上演を趣旨として活動。リリック（叙情詩）を組み込んだ戯曲と、発語や構成に渡り音楽的要素を用いた演出手法を元に、〈個人のささやかさ〉に焦点を当てながら世界の在り方を見いだそうとする作風が特徴。
これまでに市場や都市モノレールでのレパートリー作品を製作するなど、地域との共同製作も多数。
2020 年度より、代表の穴迫信一がセゾン文化財団セゾン・フェロー I に採択される。

Aokid ×たくみちゃん
ダンサーの Aokid とパフォーマンスアーティストのたくみちゃんによるユニット。
たくみちゃんの独自のメソッドを取り込むことにより既存のダンスの枠組みを拡張していけることを確信し、2014 年に初の共同でダンス作品を制作。
またワークショップやプロジェクトの企画を行い、方法論を交換し混ぜ合いながら積極的に上演以外で観客とパフォーマンスを共有していくあり方を模索している。
それぞれの活動に " たくみちゃんカップ " や " どうぶつえん " などといった、ジャンルを越えた作家同士の交流の場となるプラットフォームの場を作り続けている。

Aokid ×たくみちゃん
『MOVE-MOV(I)E MEN-MENT!!!!』

豊岡の中を移動しながら代わるがわるそれぞれの場所においてそこの景色やその場の地形や あるいはそこに集まる人や置かれた物との関係をパフォーマーの身体を媒体として制作を行う。場所を変え連続していくその都度の景色の切り替えに意識を置くことでパフォーマンスやアクションも変化していく。

公演概要
鷹野神社お参りパフォーマンス
会場：鷹野神社
日程：9 月 17 日 (木)

船上パフォーマンス
会場：但馬漁業協同組合 竹野支所（有限会社松正漁業船上）
日程：9 月 20 日（日）

竹野浜パフォーマンス
会場：竹野浜
日程：9 月 19 日（土）・9 月 22 日（火・祝）

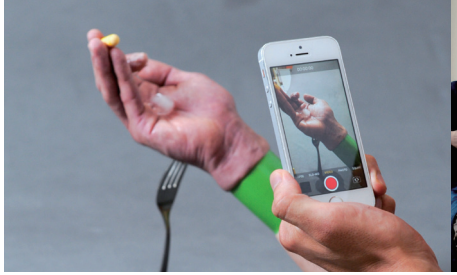
出演：Aokid　たくみちゃん
制作：吉田山

敷地理
『blooming dots』

コロナ禍で増加したオンラインでのコミュニケーション。私たちはオンライン上で、どれだけ「分かり合える」のでしょうか。身体とメディアについて作品を多数発表してきた敷地理による、オンラインでのコミュニケーションにおける身体をテーマに据えた作品です。

公演概要
会場：奥城崎シーサイドホテル　宴会場
日程：9 月 19 日（土）～ 9 月 21 日（月・祝）
オンライン日程：9 月 19 日（土）・9 月 21 日（月・祝）

振付・演出・出演：敷地理
演出助手：Nishi Junnosuke
制作：前原拓也



敷地理
振付家・ダンサーとして東京を拠点に活動。ベルリン芸術大学交換留学、武蔵野美術大学彫刻学科卒業、東京藝術大学大学院修士課程修了。自分自身を客観的に見ることが不可能な中で、自分と物質的に最も近い他者を通して自分の現実感を捉えることを主題に制作を行う。その過程で身体的臨界状態をつくり、それらを確認し曖昧にすることに関心を持つ。最近の主な活動に「ハッピーアイスクリーム」（YDC 2020 Comptetion Ⅰ / 若手振付家の為の在日フランス大使館賞受賞）、「振動する固まり、ゆるんだ境界」（TPAM 2020 Fringe）、また豊橋芸術劇場 PLAT ダンスレジデンス 2020 での滞在制作など。

京極朋彦
京極朋彦ダンス企画主宰。2007 年、京都造形芸術大学 映像・舞台芸術学科 舞台芸術コース卒業制作が学長賞を受賞。卒業後、国内外の様々な振付家作品に出演。自身が振付、出演するソロダンス『カイロー』は 2010 年初演から現在まで 5 か国 11 都市で上演された。
2012 年からダンスショーケース「KYOTO DANCE CREATION」を京都アトリエ劇研の共催事業として 3 年間プロデュース。
2015 年、平成 27 年度 文化庁新進芸術家海外派遣事業、研修員としてウィーンにて研修。その他、海外での公演、レジデンス制作、ワークショップなどを多数行う。

京極朋彦ダンス企画
『竹野町 猫町ウォーキング』

漁港には魚のおこぼれにあずかろうとする沢山の猫。竹野海岸には、猫が寝そべった形に似ているという事から名付けられた猫崎半島。更にその先端には兵庫最北端に位置する猫崎灯台。そこではなんと、人が猫の姿をしているとか ...
今回の『竹野町 猫町ウォーキング』は、皆さんに竹野町を実際に歩いていただき、町の歴史や風土、景観や風情を体感していただきながら巡っていただく回遊式パフォーマンスです。

公演概要
会場：但馬漁業協同組合 竹野支所 および 竹野浜周辺
日程：9 月 21 日（月・祝）～ 22 日（火・祝）

演出：京極朋彦
出演：伊東歌織（ダンス）　蔡 怜雄（打楽器）　成田千絵（チェロ）　京極朋彦（ダンス）
美術：山下昇平
制作：中島明日香

城崎エリア
Kinosaki

to R mansion『街角の恋人〜湯けむりサーカス編〜』
和田華子『LGBTQ 勉強会』
『俳優・劇作家・演出家・制作者に向けたLGBTQ勉強会』
天明留理子（旭堂南明）『城崎で聴く怪談話』
小菅紘史×中川裕貴『山月記』
塚越ピカル『Living Statue』

志賀直哉「城崎にて」でも有名な文学と温泉の街。開湯 1300 年を迎えた温泉の歴史と情緒ある街並は、多くの文豪からも愛されてきました。
国内外からアーティストが集まる城崎国際アートセンターや、城崎文芸館など、文化芸術の発信地として注目を集めています。街全体が大きな温泉宿というコンセプトをもつ城崎では、浴衣姿で外湯をめぐる観光客も楽しめる作品が発表されました。

肩にコウノトリをのせ、面構えいかめしいロックンローラーが但馬牛にまたがり夜の温泉街を闊歩している。
これが、豊岡を訪れる前の「豊岡フリンジ」のイメージでした。
フリンジとは「周辺にあるもの」という意味もあるんだそう。

え？　フリンジってエルビス・プレスリーの袖についてるあのピラピラのヒモの事？
そう、それもあるらしいけれど、演劇祭でいうフリンジは、演劇、ダンス、音楽と様々なジャンルの演目が、プロフェッショナル・アマチュアを問わず同じ地平で上演されるお祭りのこと、つまりパフォーミングアーツのビュッフェ。
メインディッシュも大切だけど、このビュッフェの種類の豊富さ、楽しさがフェスティバルの盛り上がりを決める肝！！
「周辺にあるもの」がなかったらって考えてみただけでも ..... 寿司の周りにガリがなかったら？　あら汁がなかったら？　緑茶がなかったら？　そんなのありえない！　..... そういうことです！！

私たち to R mansion、これまで様々な国のフェスティバルでパフォーマンスを上演してきました。
フランスのアヴィニヨン演劇祭。町中いたる場所が劇場となって、バカンスと演劇祭を半パンとTシャツでリラックスしてお祭りを楽しむ老若男女の笑顔が溢れていた。
2000 以上の演目が凌ぎをけずる世界最大の演劇祭、エジンバラフリンジ。8 月なのに雨が降るとめちゃくちゃ寒い！　それでもフィッシュアンドチップスを片手に寸時を惜しんで観劇に回るお客様たち。

世界のフェスティバルは数あれど、温泉に入れて、コウノトリにも出会える祭は豊岡演劇祭だけ！！　「唯一無二の演劇祭」が日本にあることがどれだけ凄いことか。それはもう奇跡です！
そんな場所に、参加させていただけることになった私たちがもってる奇跡！！

そして、私たち to R mansion の今回のゲストは、、、、
豊岡生まれ豊岡育ちの俳優 江戸川じゅん兵（これこそ奇跡！！！！　）
この奇跡のそろい踏みが満を持して上演した演目が、9 月 21 日に日高文化体育館で行われた「DIVE/JOURNEY」。パントマイム、アクロバット、演劇、ダンス、マジック、身の回りの素材や物を見立てで操るオブジェクトシアターの手法など、様々な表現を駆使し、作り上げたフィジカルコメディ。赤ちゃんから大人まで楽しめるエンターテイメント。高級レストランからいつの間にやら雲の上、気がつけばそこは大海原。コウノトリまで登場する笑いと驚きいっぱいの旅と人生をテーマにおくる 40 分。温泉のようにワクワク（湧く湧く）した温かい思い出というお土産を少しでもお客様にお渡しできていますように。
さらに！　to R mansion は夜の城崎温泉街にも出没しました！
その名も『街角の恋人〜湯けむりサーカス編〜』。城崎温泉の街の夜の美しい景色の中では建物だって動き出す ..... 時計の紳士と街灯のご婦人が浴衣姿で仲良くお散歩。街角で偶然出会ったお客様を、サーカス団長とピエロちゃんが、全力でおもてなし。観光客、地元の子供たちがサーカス一団について歩く様は、まさにフェスティバルパレード！　一期一会のスペシャルな回遊パフォーマンスに温泉街の夜はひときわ活気づき、賑やかさと笑顔と拍手に溢れていました。

観劇、温泉、グルメ、歴史と情緒、、まさに五感で楽しめる豊岡演劇祭。
豊岡フリンジを未だ見ぬみなさんへ。コウノトリを肩にのせて街を闊歩する浴衣姿の自分を想像しながら、さあ、一緒にシアターという無限の旅に出かけましょう！　私たちもまたきっと再訪します！

to R mansion プレゼンツ
『街角の恋人～湯けむりサーカス編～』

心も身体も癒される城崎温泉
豊岡演劇祭のスペシャルな期間には
人だけでなく　街や建物も動き出す
心ウキウキ踊り出す
川の向こうに
浴衣を着て寄り添って
時計紳士と外灯婦人が歩いてる
あれは湯けむりの幻か
怪しげな男と逆立ち道化師
笑いと驚き　拍手が響く
さあ　城崎へいらっしゃい

公演概要
会場：城崎温泉　木屋町小路周辺
日程:9 月 11 日(金)・12 日(土)・9 月 18 日(金)～ 21 日(月・祝)

和田華子
俳優。1988 年生まれ、青森県十和田市出身。FtM トランスジェンダー。
京都造形芸術大学舞台芸術学科にて演技の基礎を学ぶ。卒業後、フリーランスで多くの舞台作品に参加。これまでに平田オリザ、松本雄吉、松田正隆、神里雄大、西尾佳織、オノマリコ、山田百次、舘そらみ、松村翔子、中村大地らの作品に出演。2019 年より、青年団俳優部所属。

◆勉強会内容
・LGBTQ って？
・日本における LGBTQ の現状
・演劇と LGBTQ

公演概要
会場：城崎国際アートセンター
日程：9 月 12 日（土）・9 月 14 日（月）
オンライン日程：9 月 18 日（金）

企画：和田華子

和田華子
『LGBTQ 勉強会』
『俳優・劇作家・演出家・制作者に向けた LGBTQ 勉強会』

◆主旨
去年の秋から、俳優・演出家・劇作家・制作者に向けて、LGBTQ の勉強会を開いています。
近年、LGBT ブームという流れの中で、ドラマや映画などで LGBTQ を扱う作品が増えてきました。
しかしそんな中でも、当事者や、親族や友人などの近しい存在に当事者がいる人でなければ、LGBTQ に対する知識や理解度は依然低い、もしくは誤認が多い状態であると感じています。
それは作品を生み出しているはずの俳優、演出家、作家、なども同様にです。
表現に携わる人間は誰しも、社会の様々な情報をアップデートしていく必要があると私は考えています。
作品を創作・発信する側の人間として、LGBTQ について理解を深めておくことは、今後より増えていくであろう LGBTQ を扱った作品に関わる際に、きっと役に立つ時が来ると思います。
また作品を創る以前に、同じ稽古場や現場にも LGBTQ は存在しているという事も知って頂きたく思います。

私はこれまで数多くの現場で、現在の LGBTQ を取り巻く実情よりも大幅に遅れた認識、または誤認識を抱いたまま創作を進める作家、俳優と遭遇しました。差別用語や誤認識がそのまま採択され、舞台に乗り、観客の前に立ち現れました。
観客として観に行った作品で悲しい思いをした事も少なくありません。
今の観客、さらにはこれから芝居に足を運ぶ若い世代の観客との間に溝ができてしまわないためにも、故意に誰かを傷つけてしまわない為にも、是非劇作家や演出家、制作者の方にもご参加願いたいと考えています。
特に、私と同年代またはそれより上の世代の方は、教育の一部として LGBTQ について学ぶ機会のなかった世代です。これからいろんな世代の人と仕事をしていく人間として、自分より下の世代に表現を発信していく人間として、是非このアップデートにご参加頂きたいと考えています。
何卒よろしくお願い致します。

天明留理子（旭堂南明）
『城崎で聴く怪談話』

温泉と文学の街、城崎温泉。この地に、この季節に、最もふさわしい演目をと考え、城崎文芸館にて百年ほど前に書かれた文学作品を二編お送りします。
一つ目は岡本綺堂の原作『黄いろい紙』を一人語りします。明治 19 年のコレラ大流行時に起こったある事件を取り上げていますが、その感染症流行下の人々の様子が、このコロナ禍の現代に驚くほどマッチして生々しい響きを持って迫ってきます。
二つ目は、あまりに有名な『城の崎にて』の 12 年後に、志賀直哉がやはり城崎で書いた超レア作品『黒犬』を朗読します。大学を中退し、気だるい日々を過ごしていたころの直哉、ある冬の夜に、ふと過去の殺人事件に思いを馳せたところから、記憶と妄想の区別がつかなくなっていく、、。
どちらも人間の悲しさ、怖さにぞっとされらる怪談話です。
残暑の残る季節、普段は入館できない夜の城崎文芸館にどうぞ涼みにいらしてください。

公演概要
会場：城崎文芸館
日程：9 月 11 日（金）～ 13 日（日）

出演：天明留理子（旭堂南明）
制作：朴建雄　井上亮二

天明留理子（旭堂南明）
役者、天明留理子として円演劇研究所を卒業後、平田オリザ主宰の劇団青年団入団。
以降『東京ノート』『ソウル市民』『海よりも長い夜』など数多くの平田オリザ作品に出演。
「美女と男子」「透明なゆりかご」などの TV ドラマにも出演。
2018 年、長年続けてきた講談の世界に正式に入門し、上方講談界の重鎮、旭堂南陵（きょくどうなんりょう）一門の講談師としても活動開始。
青年団演出部所属の工藤千夏による作・演出で『大石りく物語』『永い接吻』など「講談に彩られたひとり芝居」と銘打った講談と演劇の融合という独自の表現方法を追及し公演を重ねている。
カルチャースクールでの朗読講座講師や学校現場や企業において表現やコミュニケーション教育のワークショップ講師も務める。

小菅紘史
1981 年生まれ。桜美林大学にて演劇活動をはじめ、その後、フリーの役者としてジャンル・サイズ・環境を問わず、さまざまな場所で舞台に立ち続ける。2008 年、より深く密度の高い演劇体験を求めて第七劇場に所属。以降、所属俳優としてほとんどの作品に参加。代表作は「かもめ」「班女」「山月記」。2013 年より三重県津市に活動拠点を移し、国内外で活躍する。

中川裕貴
演奏と演出をチェロ／電気／適当な録音を使用して行う。演奏行為とそれによって現れる音のあいだに在る「距離」を測ること、また「演奏をしながら自身がそこ／ここでどのように存在するか」を問うこと（またそれへの頓智）をテーマとする。この矛盾した作業（動きながら自分で自分の距離を測る）が発する音楽への襲来と、音楽からの襲来について、演奏という行為を通じ考えている。

小菅紘史×中川裕貴
『山月記』

国語の教科書にも多く採用される、作家・中島敦の名作短編『山月記』を第七劇場が小菅紘史の一人芝居として構成し、同劇団のレパートリー作品に加えて 2012 年より上演、その後は劇団での上演だけでなく、国内各地で屋内外問わずあらゆる場所での上演を重ねきた、俳優・小菅の揺るぎない代表作。

今回の城崎での上演は、現代音楽家でありチェリストの中川裕貴が初参加。劇伴音楽ではなく、俳優やテキストと拮抗するパフォーマンスを得意とする中川の演奏が加わり、作品に新たな奥行きが生まれる。

公演概要
会場：城崎温泉　温泉寺薬師堂
日程：9 月 14 日（月）

原作：中島敦
構成・演出：鳴海康平（第七劇場）
出演：小菅紘史（第七劇場）
音楽・演奏：中川裕貴
制作：富田明日香

塚越ピカル
『Living Statue』

“ スタチューパフォーマンス ” とは？
彫像や人形を演じる大道芸の 1 ジャンル。
時が止まったように静止し、ふと気づくと面白おかしく動き出す。
その場限りの即興的な出会いと物語をお楽しみください。

公演概要
会場：城崎温泉街
日程：9 月 19 日（土）・20（日）

会場：江原駅周辺
日程：9 月 21 日（月・祝）

パフォーマー：塚越ピカル

塚越ピカル
俳優・大道芸人・児童演劇ファシリテーター。
東温市観光大使／スタチューパフォーマンス協会会員／即興芝居チーム INNERSPACE メンバー
早稲田大学在学中にチンドン屋「風街宣伝社」として活動。
同校中退の後、秋田県に本拠地を持つ劇団「わらび座」へ入座。
年間 200 ステージを越える地域劇場でのロングラン公演や全国・海外巡業公演への出演のほか、アートマネージャーとして日本各地での公演制作に携わる。同劇団退団の後はフリーランスの俳優・大道芸人として、より身近な劇表現を模索する。

豊岡市街地エリア
Toyooka

日坂春奈『かみしばいや』
知念大地『続・ひしと』

石造りの復興建築がならぶ街並みは、産業や行政の中心地。
豊岡駅前からのびる大開通りや生田通りには商店も多く、来年度には芸術文化観光専門職大学も開校予定です。今回、メインのプログラムが市民会館や市民プラザなどで上演され、フリンジでは屋外の上演が行われました。

豊岡演劇祭での大道芸公演を終えてー

まず始めに、コロナ禍での全国的な公演自粛同調圧力の只中、感染対策を徹底し、表現の場を芸術家・観客・地域に提供した中貝市長と平田オリザさんの勇気に心から敬意を表します。どれほどの出逢いが、その小さな勇気から生まれた事でしょう。

＊

僕は小さな頃から出る杭が好きでした。出る杭はやさしい。大人になると、矢面に立たず誰かの後ろを歩きがちです。魂と魂で話さず、自分の会社・地域の忖度。バックボーンをちらつかせて、従うのか従わぬのかを迫るような光景を見つけると、僕は辟易してしまいます。

大っ嫌いなのです。小さい頃から。そういうものが！

かつて新宿で大道芸をしていた時、はるか昔のバイトの上司（社員）だった人が偶然通りかかり、僕を眺めていた事がありました。大きな手拍子で応援し、真剣な眼差しで僕を見つめながら帽子にお札を入れ、無言で立ち去っていった。そこには上司とバイトというかつての関係はなく、人間と人間がいた。

人間の眼は、美しい。

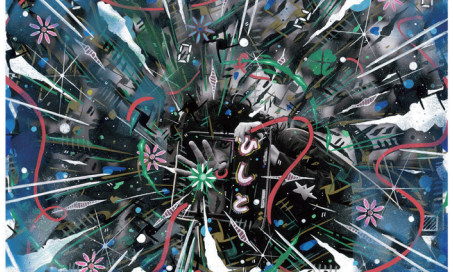
＊

「大道芸人」は、目の前の人間、街、宇宙と対峙して足掻くひとりの人間の仮名です。

ああ！　何度でも！
僕は
出る杭が好きだ。
出る杭はいつも
弱い側から
体ひとつを担保に
突き出てくる。

僕は芸をする
好きです。
街や人が。
日高、竹野で芸をした。毎回毎回違う風だ！
沢山の出逢いがあった。
今も、僕の中にある、あの日の巨大台風は
天気予報師も観測不能な
デカさ
広さ
あたたかさ

どこの場所でも、人と人が繋がれば、素晴らしい風がふく



知念大地
大道芸人。
国内外の大道芸フェスティバルで活動。Oerol Festival（オランダ）、アンサンフェスティバル（韓国）、LINZER Pflasterspektakel（オーストリア）、ノンテール（フランス）、ドバイバスカーフェスティバル（ドバイ）、他多数。大道芸の傍ら、踊りによる旅も継続中。

パフォーマー：知念大地
制作：知念史麻
制作・撮影：佐藤壮生

知念大地
『続・ひしと』

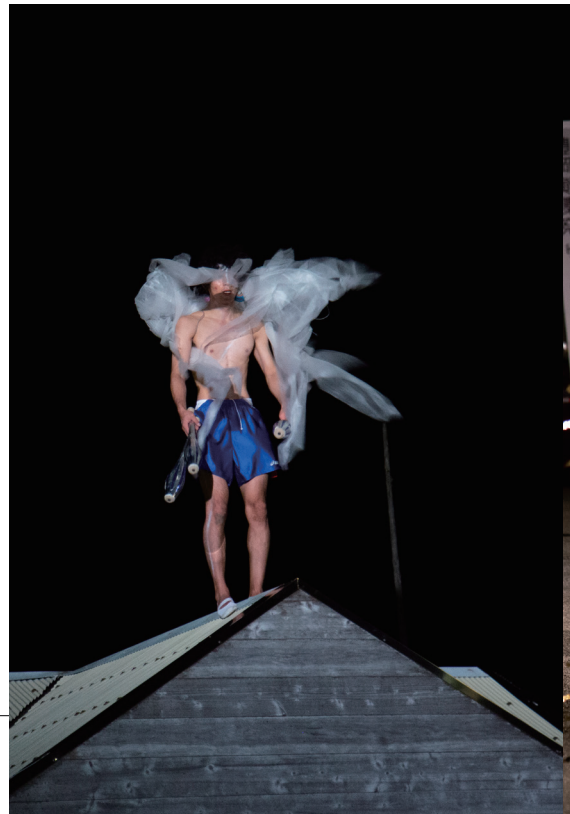
路上の風神！　知念大地！
コロナなんか吹き飛ばせ！
ゴーゴー遊んで吹き飛ばせ！
何が飛び出すかわからない路上芸。
来るぞ大風！

公演概要
会場：江原河畔劇場前広場
日程：9月9日（水）・10日（木）・12日（土）・13日（日）・18日（金）

会場：豊岡市役所本庁舎前市民広場
日程：9月11日（金）

会場：江原駅前イベント広場
日程：9月16日（水）・19日（土）

会場：奥城崎シーサイドホテル敷地内
日程：9月22日（火・祝）



日坂春奈
『かみしばいや』

上演演目：
「そうめんのゆめ」「はずかしがりやのカエルッタ」他
兵庫県の名産である素麺を題材にした作品や、豊岡市内の子供達に描いてもらった絵を使った作品を創作、発表。

公演概要
会場：豊岡市役所本庁舎前市民広場
日程：9 月 12 日（土）

会場：江原河畔劇場前広場
日程：9 月 12 日（土）・13 日（日）

オンライン日程：9 月 13 日（日）

作・演出・出演：日坂春奈
制作助手：大道朋奈
自転車技術：山内健司

日坂春奈
小さいプラスチックの紙芝居舞台に入ったハガキサイズの紙芝居のおもちゃを大切にしていた記憶とともに育つ。
2013 年、ままごとの Theater-ZOU-NO-HANA にて紙芝居を演じる。上演場所の環境を生かした演出を加えた作品の上演を行う。
その後もスイッチ総研などに参加し創作・出演を重ね、全国各地の路上などで様々な観客と出会うことの出来るパフォーマンスの面白さを感じる。
演劇活動と並行してそうめん料理家としても活動している。瀬戸内国際芸術祭で香川県小豆島の名産・手延べそうめんの美味しさと出会ったのをきっかけにそうめん料理の創作に励むようになり、レシピの提供や WS を展開。

日高 / 江原エリア
Hidaka/Ebara

越後正志『観測地点』
劇団普通『電話』
広田ゆうみ + 二口大学『いかけしごむ』
一般社団法人ダンストーク『マジな性教育マジか』by 康本雅子 + 池上恵一
「老いと演劇」OiBokkeShi『老いと演劇のワークショップ』
to R mansion『DIVE/JOURNEY（ダイブジャーニー）』
うさぎストライプ『ゴールデンバット』
山川陸 (山川陸設計)『三度、参る』

豊岡市の交通の要と言われる日高町の中心地、江原（えばら）駅には、昭和 10 年に建てられた旧日高町町役場をリノベーションした劇団青年団の新拠点、「江原河畔劇場」があります。江原駅周辺は期間中、フェスティバルセンターの開設、ナイトマーケットの実施など、演劇祭の玄関口にもなりました。サンロード商店街、ワークピア日高、日高文化体育館、友田酒造などで、演劇をはじめワークショップ、フィールドワークや展示など、幅広い分野の作品が発表されました。

◉「インスタレーション」
豊岡演劇祭 2020 フリンジに参加した現代美術家の越後正志です。「インスタレーション」は、現代美術の世界では当たり前のように使われている言葉です。この言葉を説明するとき、私は「その場所（空間・人）でしか成立しない展示」と説明します。今回の演劇祭では「江原スペシャル」な作品を目指し、取り組みました。

◉「江原スペシャル」- サンロード商店街
「江原」は、JR 江原駅を降りた西口駅前一帯の地区の名です。以前は日高町役場が置かれていました。役場だった建物は、現在は江原河畔劇場へ姿を変えました。
私は全体のタイトルを「観測地点」に、３つの場所でそれぞれ異なる展示を行いました。展示場所の「サンロード商店街」、「友田酒造」、友田酒造の裏手の「河川敷」は、いずれも江原河畔劇場を訪れた人が足を伸ばして見てもらえるよう選びました。

展示は私やワークショップを通して発見した江原周辺の要素をキーワードにしました。例えばサンロード商店街の展示は、豊岡高校の高校生（木下栞さん・衣川萌々香さん）と共に行ったワークショップによるものです。ワークショップでは、まず「江原」について家族や身近な人からの聞き取り調査をお願いしました。その中に地域の人に愛されているお店や個性あふれる店主の話がありました。通りがかりでは見えない店の中の様子や店主の顔、これらが街の個性と言えるスペシャルな部分だろうと考え、サンロード商店街や周辺の「店内の様子」やそこで「働く人の姿」をテーマにした写真作品を制作することに決めました。制作にあたって、およそ１年前からサンロード商店街の空き店舗を借り、豊岡市の地域おこし協力隊として地元の人間関係を築いていた渡辺瑞帆さんの協力が欠かせませんでした。

写真は９店舗の店内で木下さん・衣川さんがオシドリの剥製を持ち、ポーズを取っているものです。ポーズはその店独自の「音」を探している場面をイメージしたものです。コーヒー豆を挽く音、焼き鳥やお好み焼きを焼く音、新しく届いた雑誌の封を開く音など採集した音は、演劇祭の会期中、商店街の渡辺さんの事務所「Lobby」内で流しました。
写真設置はサンロード商店街の通路を使いました。商店街の通路は両端から人が自由に入ることができる導線になっています。通路に等間隔に並ぶ梁を利用して写真を吊るしました。写真は半透明の素材に印刷したのは、通路の両方のどちらから歩いても見てもらえる展示にするためでした。

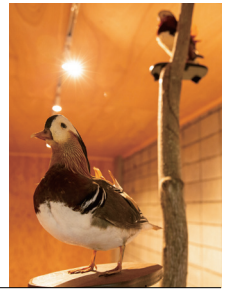
◉「江原スペシャル」- 友田酒造と河川敷
２つ目の展示場所「友田酒造」は、初めて訪れたとき、私はうっすらと光が差し込む酒蔵独特の空間に一目惚れをしました。
さらにオーナーの友田節子さん・友田謙二さんとお話しした際、“すぐ裏手の河川敷には鹿が出る”、“江原の駅前に熊が出た”といった話を聞き、人の生活がなんと自然に近い場所なのかという驚きを受け、自然の姿を友田酒造の空間の中で見てもらうという「江原スペシャル」な展示を思いつきました。
私が聞いた話をもとに、実際人が寝静まる頃に現れた鹿が河川敷を歩く姿を撮影した映像やすぐ裏手を流れる円山川で見つけた「タニシ」をプロジェクターにより数十倍の大きさに拡大し蔵の壁に張り付いているように映し出すことで、何頭も鹿が歩き回る非日常的な風景や、「タニシ」が蔵の壁を動き回るダイナミックな姿を取り上げました。さらに酒蔵の空間には約７０枚の青焼き写真を展示しました。青焼き写真は、太陽光（紫外線）による化学反応を利用した複写技法です。一枚一枚の写真は私が切り出してきた様々な種類の植物の枝葉が複写したものです。蔵の薄暗がりの空間に浮かび上がった植物の姿形に、自然のもつ多様な形と複雑さに目を向けてもらえるよう意図しました。

また、「友田酒造」のすぐ裏手を流れる円山川の河川敷に、「∞」の形が現れるよう河川敷の草を刈りました。「∞」の形は、場所の移動が制限されたコロナ禍で、日々、ぐるぐると部屋の中を回りながらアイデアを考えていたことから着想しました。刈られた箇所を歩くと、地面から出てきたばかりの新芽や昨晩ここを歩いていた鹿の糞を見つけることができます。河川敷という雑草が生え放題になっていた場所に、新鮮な驚きを見出す「江原スペシャル」な試みになりました。

◉更なる「江原スペシャル」の掘り起こしへ
2020 年は新型コロナウイルス感染拡大の影響で気軽に人と会ったり、話したりすることが難しい状況に見舞われました。本来であれば、もっと大勢の江原の街の様々な人たちと出会い、話を聞き、街の中で眠っているスペシャルな要素を掘り起こしたかったというのが正直な気持ちです。
ただ豊岡演劇祭の素晴らしいところはこれから毎年開かれる予定だという点です。これからは、演劇はもちろん、大道芸や紙芝居など様々な表現を通して、豊岡のスペシャルな部分の掘り起こしが生まれることを期待しています。

最後になりますが、展示の実現にあたり地元の店舗、木下栞さん・衣川萌々香さん（豊岡高校）、イガキフォトスタジオ、絆工房、友田節子さん・友田謙二さん・友田家の皆様（友田酒造株式会社）、井坂浩さん（照明家）、前田喜久夫さん（日高機械センター）、展示設営では青年団スタッフの方々など、多くの方にサポートをして頂きました。また多くのボランティアの方々に会場清掃を手伝っていただきました。
そして演劇祭事務局コーディネーター・渡辺瑞帆さんをはじめ、事務局スタッフ、豊岡市大交流課の皆様には心から感謝申し上げます。

2020 年 11 月 24 日
小豆島にて



越後正志
1982 年富山県高岡市生まれ、香川県小豆島在住。武蔵野美術大学建築学科卒業。東京藝術大学大学院博士後期課程修了。
越後正志は、これまで「移動」をテーマに国内外において様々なアート・プロジェクトを行ってきました。プロジェクトは「他者のモノを移動する」ことによってその人の記憶を顕在化することが目的です。豊岡演劇祭 2020 では、江原駅周辺の複数会場において現地のリサーチ（観測）を行った土地の断片を組みあわせた作品展示を行います。

越後正志
『観測地点』

今回の展示では、新型コロナウイルスによって生まれた様々な制限がある状況でも自分に出来ることがあるはずだと、商店街のアーケード、使われなくなった酒蔵、夜の河川敷、場所場所で足を止めて耳を澄まし、観測を行いました。すると商店街のあちこちから聞こえてくる音、酒蔵の空間に満ちた香り、そして夜の河川敷に現れた動物など様々な景色が見えてきました。異なる会場でそれぞれ空間に合わせた展示を行います。

公演概要
会場：友田酒造、サンロードアーケード、LobbySUNROAD、河川敷
日程：9 月 9 日（水）～ 22 日（火・祝）

出演：木下栞（豊岡高校）　衣川萌々香（豊岡高校）
コーディネーター：渡辺瑞帆（豊岡演劇祭 2020 事務局コーディネーター）
ワークショップ写真撮影：igaki photo studio

劇団普通
『電話』

兄からかかってきた一本の電話からはじまる 40 分の会話劇。田舎で生まれ育った三兄妹は、跡取りの長男ひとりを地元に残し、次男と末の妹は都市で暮らしている。“なんとなく疎ましい”感情から、再三かかってきた長男からの電話に出ることができず、ついに二か月ぶりに電話を取った次男と妹は、思いがけない出来事を知らされる。
市井の人々のともすれば“なんということのない日常”を丹念に掬い上げた会話劇。
2019 年 9 月の『病室』に続き、作者の出身地である茨城の「地の言葉」で紡ぐ全編方言芝居。

公演概要
会場：ワークピア日高
日程：9 月 18 日（金）～ 20 日（日）

作・演出：石黒麻衣
出演：澤唯（サマカト）　用松亮　小林未歩
制作：野崎恵（クロムモリブデン）
撮影・照明：福島健太
宣伝美術：関根美有
舞台監督：石黒麻衣
企画制作：古屋隆太（青年団）　劇団普通

劇団普通
石黒麻衣 (脚本 / 演出 / 役者) 主宰の劇団。2013 年旗上げ。
劇団普通の作品は、家族、きょうだい、友人のような間柄の人々の日常の生活を題材としながら、独自の会話における「間」と「身体性」によって醸し出される「緊張感」を特徴とし、また、「言葉」のみならず「身体言語」でのコミュニケーションに着目した「会話劇」とは一線を画す「態度劇」とでも言うべき演劇の表現におけるあらたな試みをしております。確かな構成を下地として、「言葉」の情報を削ぎ落として会話のリアリティを追求し、その分「俳優の状態」に立ちあらわれる情報を重要視して、観客に想像させる演劇を一貫して上演してきました。近年は、主宰石黒の出身地である茨城の方言を用いた戯曲も上演し作品の幅を広げております。

劇団普通『電話』
撮影：福島健太

広田ゆうみ + 二口大学
『いかけしごむ』

「イカケシゴムを発明してブルガリヤ暗殺団に追われている」と語る男に、女が告げる《現実》とは。 湿った風に吹き寄せられるように出会ってしまった孤独な人々の、懸命な、それゆえに悲しく滑稽な「闘い」を描く。
日本に於ける不条理演劇の第一人者である今年 3 月に逝去した別役実の戯曲。1989 年初演。

公演概要
会場：ワークピア日高
日程：9 月 19 日（土）～ 21 日（月・祝）

作：別役実
演出：広田ゆうみ
出演：広田ゆうみ　二口大学　くるぶし
舞台監督：平岡希樹（現場サイド）
照明・音響：西内捺美（現場サイド）
制作：油田晃（特定非営利活動法人パフォーミングアーツネットワークみえ）

広田ゆうみ＋二口大学
京都を拠点に演劇活動を続ける広田ゆうみと二口大学。
広田ゆうみは 2006 年までユニット〈小さなもうひとつの場所〉で 10 年に渡り多数の別役実戯曲を上演。多岐に渡る別役実作品を耽読し、特に童話作品については朗読も継続的に行っており、その取り組みから得た視点と、蓄積による確かな立脚点をもって出演・演出を担当。
二口大学は「顔を見ないと忘れる」(作・演出 鈴江俊郎) で第 10 回関西現代演劇俳優賞男優賞を受賞するなど、その実力を広く認められた俳優。別役実作品にもかねてより興味をもっており、広田の呼びかけに応えて継続的にその作品に取り組んでいる。

一般社団法人ダンストーク
『マジな性教育マジか』
by 康本雅子 + 池上恵一

「自分」って何？「家族」って何？
「男の子らしさ」「女の子らしさ」って何？

こども編は、グループでの話し合いや、言葉をつかわないコミュニケーションを取り入れたさまざまなゲームを通して、アーティストとともにからだへの発見を広げていくワークショップ。自分のからだと向き合い、受け入れること、他人のからだに触れて、想像し尊重すること。おとな編は、ロールプレイ形式の対話をつかって「性」に関するさまざまな立場や考えを演じてみることによって、自分や自分をとりまく社会について想像してみるオンラインワークショップ。

公演概要
会場：ワークピア日高
日程：［こども編］9 月 12 日（土）
オンライン日程：［おとな編］9 月 13 日 (日)

ナビゲーター：康本 雅子　池上 恵一
制作：千代その子（一般社団法人ダンストーク）

康本 雅子（ダンサー・振付家）
1974 年東京生まれ。ダンス公演のほか、演劇や広告や MV、コンサートの振付など多岐にわたる方面で活動。教育機関でのダンスワークショップや作品制作なども全国各地で行なっている。12 年から福岡、15 年からは京都に移住。2 児の母。

池上 恵一（現代美術作家）
1972 年大阪生まれ。身体をテーマにした作品を国内外で発表するほか、創作活動の一環として様々なマッサージ技術や武術を習得。近年では舞台美術やワークショップの企画など、ジャンルを越えて幅広い活動を展開している。

「老いと演劇」OiBokkeShi
『老いと演劇のワークショップ』

演劇体験を通じて、認知症の人とのコミュニケーションを考えるワークショップです。
参加者同士で認知症の人と介護者を交互に演じて、認知症の人の言動を否定せずに受け入れるコミュニケーションや、言動を否定されたときの認知症の人の気持ちを疑似体験。
実際に身体を使って演じることで、認知症ケアの気づきやヒントを講師と参加者間で共有していきます。

公演概要
会場：日高文化体育館 大ホール
日程：9 月 19 日（土）

ファシリテーター：菅原直樹
俳優：金定和沙
制作：野坂牧子
撮影・デザイナー：岡野雄一郎

菅原直樹
1983 年生まれ、栃木出身。劇作家、演出家、俳優、介護福祉士。「老いと演劇」OiBokkeShi 主宰。桜美林大学文学部総合文化学科卒業。平田オリザが主宰する青年団に俳優として所属。
2010 年より特別養護老人ホームの介護職員として働く。2012 年、東日本大震災を機に岡山に移住。認知症ケアに演劇的手法を活用した「老いと演劇のワークショップ」を全国各地で展開。超高齢社会の課題を「演劇」というユニークな切り口でアプローチするその活動は、近年演劇、福祉のジャンルを越え多方面から注目を集める。
これまでの作品に『よみちにひはくれない』、『老人ハイスクール』、『BPSD: ぼくのパパはサムライだから』、『カメラマンの変態』など。

撮影：hi foo farm

to R mansion
『DIVE/JOURNEY（ダイブジャーニー）』

時にサイレント映画のスラップスティックコメディのように、時にレトロなミュージックホールのように、また時には、子供の頃に何度も読んだ冒険物語のように、、、、ド派手でクール、クレージーで心優しい四人組が、地球一周ほどの距離を旅しながら、たくさんのアイディアと発明を重ねてお届けする、笑いと驚きいっぱいのフィジカルシアター。

公演概要
会場：日高文化体育館 大ホール
日程：9 月 21 日（月・祝）

主宰・パフォーマー：上ノ空はなび
パフォーマー：丸本すばじろう
パフォーマー：江戸川じゅん兵
パフォーマー：野崎夏世
音響：廣岡一葉

to R mansion
2007 年結成。現在までに 16 カ国 82 都市の劇場や演劇祭、ストリートフェスティバルから招聘され、世界中で大人気のパフォーマンスカンパニー。フランスのアビニョン演劇祭では 1082 演目中の口コミトップ 20 に選ばれ、連日ソールドアウトとなる。神戸ビエンナーレ大道芸コンペティションでグランプリを 2 度獲得するなど受賞歴多数。フランスの有力紙リベラシオン紙でも「日本から来た凄まじいこの劇団は、スラップスティックコメディを上演し、夜は広場の群衆を笑いに包む。」と紹介されるなど、海外でも高く評価されている。かのファッションデザイナー、ジャンポール・ゴルチエ氏も彼らの大ファンである。

うさぎストライプ
2010 年結成。劇作家・演出家の大池容子の演劇作品を上演します。「どうせ死ぬのに」をテーマに、演劇の嘘を使って死と日常を地続きに描く作風が特徴。 2013 年 9 月、地下鉄サリン事件を遠景に交差する人々の思いを描いた『メトロ』で芸劇 eyes 番外編・第 2 弾「God save the Queen」に参加。2019 年 3 月、『バージン・ブルース』で平成 30 年度 希望の大地の戯曲賞「北海道戯曲賞」大賞を受賞。

うさぎストライプ
『ゴールデンバット』

何度も芸名とキャラクターを変えながら、東京で地下アイドルとして活動していた梅原純子。昭和歌謡曲を中心とした彼女のライブのスタイルは、路上で誰にも相手にされず歌い続けていた宮城県出身の六十代の女、海原瑛子の姿を真似たものだった。ビールケースと昭和歌謡曲で二人の女の人生を描く、菊池佳南の一人芝居。

公演概要
会場：江原駅前イベント広場
日程：9 月 16 日（水）～ 18 日（金）

作・演出：大池容子
出演：菊池佳南
制作：金澤昭

山川陸 (山川陸設計)
『三度、参る』

『三度、参る』は、豊岡の街を介して皆さんの眼差しに出会う場として設計されます。
短いルートを繰り返し歩き、その中で観た物事を地図にする。この一連を山川陸と手押しの什器がナビゲーションします。
演劇祭を巡り、上演を観る、その身体をも見つめる時間と空間を共に立ち上げましょう。

公演概要
会場：江原河畔劇場周辺
日程：9 月 16 日（水）～ 22 日（火・祝）

設計・ナビ：山川陸
制作アドバイス：武田侑子
アシスタント：板倉勇人　中條玲

山川陸
建築家 / 一級建築士事務所山川陸設計 代表。1990 年生。2013 年 東京藝術大学美術学部建築科 卒業。2013-15 年 松島潤平建築設計事務所 勤務。2017-20 年 東京藝術大学美術学部 教育研究助手。建築物に限らず、パフォーマティブ・フィールドワーク『Sand (a)isles』（2019, Festival / Tokyo19）の演出・制作、舞台芸術祭「Whenever Wherever Festival」（2018-）の企画・運営、演劇カンパニー「新聞家」のセノグラフィー（2019）、広義の設計に取り組む。

日高 / 神鍋エリア
Hidaka/Kannabe

theater apartment complex libido:『libido:AESOP 0.9』
スペースノットブランク『ラブ・ダイアローグ・ナウ』

神鍋山を中心に３つのスキーリゾートを有する日高町・神鍋（かんなべ）高原。スポーツ合宿の聖地としても有名であり、期間中は多くのアーティスト・スタッフが滞在する“選手村”のような賑わいがあり、地元の方との交流も盛んでした。見晴らしのよい山々、夜は上空に星空の広がる神鍋高原では、大自然を生かした作品が発表されました。

ご観劇いただいた方々、気にかけてくれた方々、豊岡演劇祭の関係者の皆様。日高神鍋観光協会、アップかんなべ、やまね屋のおばちゃん、野菜くれた隣のおじいちゃん、轢いちゃった鹿さんにはごめんなさいだけど、本当に色々な方々に感謝の豊岡演劇祭でした。
（第０回があったとは言え）１回目の演劇祭で、その上にコロナの影響があって、大変なことばかりだったと思いますが、参加した身として、急速に変わり続ける状況の中で、迅速で徹底した対応と、何より今一番大切な人と人の繋がりを感じることのできた演劇祭で、心から気持ちが良かったです。
ありがとうございました。

この場をお借りして神鍋でできた作品のことを記しておきたいと思います。

豊岡演劇祭で上演した「libido:AESOP 0.9」は 2020 年に libido: が送る初のシリーズ作品としてコロナ禍３本目の作品となりました。

今シリーズのこれまでの上演は以下の通りになります。

『libido:AESOP 0.1』　2020.6.27-28 ＠百景社アトリエ（茨城）
『libido:AESOP 0.5』　2020.7.19 ＠鳥の劇場・グラウンド（鳥取）
『libido:AESOP 0.9』　2020.9.9-11 ＠アップかんなべ中央グラウンド
『libido:AESOP 0.99...』　2020.9.19-20 ＠鳥の劇場・野外ステージ（鳥取）
『libido:AESOP 0』　2020.11.28-29 ＠せんぱく工舎・庭（千葉）

「libido:AESOP」はイソップ寓話を原案に「教訓のついた寓話はなぜ生き残ったか」「そもそもイソップとは何者なのか」、そしてなにより「この苦しい現在を生きることはどういうことなのか」ということについて、メンバーで話しながら、掘り下げながら、頭を抱えながら、書いた言葉、話した言葉、書かれた言葉、いろいろな言葉を編み上げて立ち上げました。
また、基本は野外劇で創作を続けています。このコロナ禍における演劇を考えていく中で、それが我々の選択した道でした。

コロナ禍におくる新たな「つくりばなし」として、また、今だからこそ上演すべき作品をと、過去作を踏襲しながら積み重ねつつ、毎回作品を作り替え上演を続けてきました。
今年は常に得体の知れないものに対峙し続ける混沌とした１年であり、その中で一つの答えを提示し続けることは正解ではないと思ったからこそ、記録を取るように短期間で毎回新作を創作してきたように思います。

その中において 0.9 では、イソップ寓話の「ウサギとカメ」（競争）「アリとキリギリス」（労働）「田舎のネズミと街のネズミ」（格差）の３本を我々なりにアレンジして軸とし、その間に様々な「声」を挟んで創作しました。イソップ寓話の別々の物語が誰かの「言葉」によって一つの「つくりばなし」になるように構成しています。

また、0.5 から 0.99…までは車を使用していました。それは、我々自体が常に「移動」を続けていたということと、良くも悪くも今の時代における「車」がこれまでとは違う「生活」の側面を反映していると感じたからです。0.9 からは「生活」というキーワードをさらに煮詰めて“軽トラック”になったのですが、もともと“軽トラック”は豊岡演劇祭実行委員会との初期のミーティングから生まれています。
（ちなみに「車乗生活者」というのも創作のキーになっていました）

シリーズを通して「暴力」が全体のテーマでもありました。
今まさに様々な暴力が世の中に渦巻いています。自分自身も決して他人事ではないと感じてきた部分がありました。また、コロナ禍において「暴力」はどんどん拡張し膨大になり敏感になっていくのを感じていました。それを考えていると現実に何度も押しつぶされそうにもなりましたが、圧倒的な現実にこそ表現は立ち向かっていかなければならない。と、改めてそう思うからこそ、負けずに踏ん張り続けていたように思います。

0.9 はその「暴力」ということから派生して「水」というのも大きなキーワードになりました。それは、「暴力」の解決には根本的なところで必ず精神的な潤い（水）が必要なのではないかと考えたことと、神鍋の地形と、そこに住む人々から感じた「素直さ」からの発想だったように思っています。

「山」に降り注いだ水も浄化されながら「海」へと流れていくわけですが、下流部分でその水は果たして本当に浄化されているのだろうか。水は足りているのか。という疑問から転じて、人の浄化（暴力からの解放・精神的な潤い）とはどの状態でどの経路の先に存在できるのか。ということも想い描きながら今作を創作していました。

0.9 は他バージョンと比べても特にその環境に滞在したからこそ創造することができた作品だと思っています。それは一重に神鍋に住む様々な方々との出会いと協力があってのことです。繰り返しになりますが、本当に感謝しています。
とても貴重で幸せな体験をさせていただきました。また必ず訪れたいと思います。

theater apartment complex libido:
代表：岩澤哲野

theater apartment complex libido:
岩澤哲野、大蔵麻月、大橋悠太、緒方壮哉、鈴木正也による演劇の拠り所。これまで岩澤個人名義のプロデュースユニットであった「libido:」を 2019 年 4 月 30 日より集団化。「theater apartment complex」という冠を表し、千葉県松戸市八柱・常盤平地区を拠点に、社会における演劇の価値の発見と、その為の新たな表現、コミュニティの創造を主とした活動を行っている。昨年、3 都市ツアー公演を成功させた。

theater apartment complex libido:
『libido:AESOP 0.9』

世界中にその影を残す寓話作家の元祖・イソップ。
彼が残したとされる「寓話」をもとに、コロナ禍の現在に送る新たな「つくりばなし」を上演します。

公演概要
会場：アップかんなべ 中央グラウンド　軽トラックシアター
日程：９月９日（水）～ 11 日（金）

構成・演出：岩澤哲野
出演：大橋悠太　鈴木正也
ドラマトゥルク：小野晃太朗（シニフィエ）
音響：高橋真衣
舞台監督：桝永啓介
制作：大蔵麻月
制作補佐：保科芳樹
協力：堤裕吏衣　急な坂スタジオ　せんぱく工舎

スペースノットブランク
『ラブ・ダイアローグ・ナウ』

『ラブ・ダイアローグ・ナウ』は、出会いの過程を描いた舞台作品です。舞台に表れる人びとの記憶、個人情報、性差、異なる思考、それらに関する「自己の説明」が「他者の説明」と織り交ざり、重ね合わさり、異なる形態へと変化していくように場面が構築されています。本作は「説明」を主体とする全編が「独白」のように見える「対話劇」であり、「ひとりごとが伝染する」かのような現象が起こります。それらの過程を経て、最後にはただ少しロマンチックな出会いの物語が浮かび上がります。

公演概要
会場：アップかんなべ 中央ゲレンデ（野外）
日程：9 月 12 日（土）・13 日（日）

出演：古賀友樹　札内茜梨
演出：小野彩加　中澤陽
舞台監督：河井朗
制作：花井瑠奈
保存記録：植村朔也
協力：プリッシマ　ルサンチカ　東京はるかに

スペースノットブランク
小野彩加と中澤陽が舞台芸術を制作するコレクティブとして 2012 年に設立。舞台芸術の既成概念に捉われず新しい表現思考や制作手法を開発しながら舞台芸術の在り方と価値を探究している。環境や人との関わり合いと自然なコミュニケーションを基に作品は形成され、作品ごとに異なるアーティストとのコラボレーションを積極的に行なっている。

但東エリア
Tanto

烏丸ストロークロック『「但東舞堂考」に向けて ～豊岡市但東地域の営みと舞台芸術のリサーチ～』

豊岡市の裏玄関、但東町（たんとうちょう）は、京都府福知山市と隣接し、田園の広がる自然豊かな町。
周囲は山に囲まれ、東西に円山川支流の太田川、南西に同じく出石川が町の中心部を流れており、それら川に沿って 42 の集落が広がっています。原風景を感じる田畑の中には、神社や農村歌舞伎・神楽の舞台として使用されていた“舞堂”が数多く点在しています。今回は京都を中心に活動している烏丸ストロークロックによるリサーチが行われました。

烏丸ストロークロックは、1999 年より京都を拠点に、現代演劇の作品をつくる活動をしている団体です。これまで全国のいろいろな地域でその土地でのリサーチを元に滞在制作や市民参加型の創作を行ってきました。今回、豊岡演劇祭 2020 のフリンジ枠に参加し、継続的な創作のためのリサーチとして豊岡市の但東地域を訪れました。

但東は豊岡市の東端に位置し、三方は京都に囲まれ、山あいに田畑が広がり小さな集落が点在しているような場所です。地元の方も自嘲を込めて昔は「汽車無し郡ランプ村」と呼んでいたそうで、日本でも明治には鉄道が敷かれ、昭和には道路が整備されていくと共に人々の居住エリアは変遷していきますが、大きな変化のなかった但東地域では自然と道と人々との関係が長く変わらないまま今でも残っています。

但東の興味深い特徴の一つに、各集落の神社の境内に多く残る農村歌舞伎の舞台があります。江戸末期から明治にかけて日本の多くの農村地域で盛んになった旅芸人による歌舞伎と、それを地元住人たちが真似ることから端を発した「地芝居」文化が但東でも多くみられました。つまり、神社という場所は信仰だけでなく、現在の文化施設やコミュニティ施設のような住人の集いの場としての役割も担っていたことを知りました。

私たちは 2014 年に行った東日本大震災の取材で訪れた東北で神楽と出会い、コミュニティを結びつける存在である神楽に、芸能の原初を感じ、強く興味を惹かれました。その後の烏丸ストロークロックの作品では、神楽をモチーフとしたシーンが多く登場するようになりますが、研究と実践をすすめていくうち、足りないものにも気づいていきました。本来、その土地の風土・産業・習俗・信仰といった人間と自然を含めた営みが祭りや神楽の根幹にはあり、劇場でやるにあたっては絶対に持ち込めないこれらが、但東との関わりの中で一歩進められるのではないかと感じています。

但東にはそうした自然と人の営みが関わり循環を成してきた歴史があり、現在に至るまで残存しています。そうした中でこの土地を背景とした舞台のコンテンツを生み出すことは、烏丸ストロークロックが神楽と対峙してきたことと符合するのではないかと思っています。地元の方と関わりながら、但東のロケーションの中でしか生まれない、土地や営み、そして生き死にが境目なくつながり、関係しあう豊かな循環を、来訪した観客が体験できる作品としくみを今後作っていきたいと考えています。

烏丸ストロークロック
1999 年、柳沼昭徳（劇作・演出）を中心として近畿大学文芸学部芸術学科演劇・芸能専攻に在籍中のメンバーで設立。以降、京都市を拠点に活動を行う。初期の作品では、バブル崩壊後の社会で、まどろみながら虚無的に生きる若者たちを登場人物に、現代口語演劇に影響を受けた会話劇を主とする。また一方では、台詞とストーリーに依らない実験的作品を発表するなど、表現の模索を続ける。2010 年からは「業火」シリーズ、多地域での活動を活発化させ、三重、岡山、広島、愛知、東京などで上演を行い、地域の垣根を越えた活動にも積極的に取り組む。

柳沼昭徳
劇作家・演出家。1976 年京都市生まれ。近畿大学在学中の 1999 年に「烏丸ストロークロック」を旗揚げ、京都を拠点に国内各地で演劇活動を行う。作品のモチーフとなる地域での取材やフィールドワークを元に短編作品を重ね、数年かけて長編作品へと昇華させていく創作スタイルが評価され、各地で演劇ワークショップや市民参加型の創作も多く手がけている。近年では地域に伝わる神楽や祭、山伏文化と精神性に触れ、『まほろばの景』(2018) は日本古来の感覚を呼び覚ます作品として反響を得る。また、俳優・スタッフには関西外からも多く人材を起用、ワークショップや市民参加型の創作も多数手がけ、団体や地域の垣根を越えた活動の中で、地方都市での持続可能な創作の形を追求している。第 60 回岸田國士戯曲賞ノミネート、平成 28 年度京都市芸術新人賞受賞。

杉山至
舞台美術家。国際基督教大学卒。在学中より劇団青年団(平田オリザ主宰) に参加。2001 年度文化庁芸術家在外研修員としてイタリアにて研修。近年は演劇では青年団、地点、サンプル、シリアルナンバー、城山羊の会、東京タンバリン、てがみ座、ダンスではダンスシアター LUDENS、平山素子、MOKK、白井 剛、森川弘和、またミュージカル・テニスの王子様、オペラでは日生オペラ『フィガロの結婚』『ドン・ジョバンニ』、ドイツ・ハンブルク劇場主催『海、静かな海』の舞台美術を手掛る。舞台美術ワークショップも多数開催している。また、近年は劇場等のリノベーションも手がけている。劇団地点『るつぼ』にてカイロ国際演劇祭ベストセノグラフィーアワード 2006 受賞。第 21 回読売演劇大賞・最優秀スタッフ賞受賞(2014 年)。桜美林大学、四国学院大学、女子美術大学非常勤講師、舞台美術研究工房・六尺堂ディレクター、NPO 法人 S.A.I. 理事、二級建築士。

烏丸ストロークロック
『「但東舞堂考」に向けて ～豊岡市但東地域の営みと舞台芸術のリサーチ～』

豊岡市の但東町では、20 近い舞台が現在でも住民の方の手入れによって保存され、集落の神社の境内にひっそりと残っています。一時代の農村での娯楽を担った地芝居はどのように根付き、そして廃れていったのか。戦前、戦後そして現在まで人々の営みにはどのような変遷と変化があったのか。土地の歩み、人の歩み、芸能、神事の歩みを紐解きながら、現在に続く舞台芸術の形を探ります。
烏丸ストロークロックのこの但東でのリサーチは、今後長期的に実施し、作品制作につなげていくことを目指しています。

トークイベント開催概要
オンライン日程：9 月 21 日（月・祝）

登壇者：柳沼昭徳（劇作家・演出家）　杉山至（舞台美術家）

オンライン
Online

オンラインのみ
竹中香子『「民主的演技」を考えるワークショップミーティング』
劇作家女子会。『劇作家による著作権との付き合い方勉強会：死後のライセンスについて』

オフライン＋オンライン
敷地理『blooming dots』 ……P.12
和田華子『俳優・劇作家・演出家・制作者に向けたLGBTQ勉強会』 ……P.17
一般社団法人ダンストーク『マジな性教育マジか』by 康本雅子＋池上恵一 ……P.30
烏丸ストロークロック『「但東舞堂考」に向けて ～豊岡市但東地域の営みと舞台芸術のリサーチ～』 ……P.40

オンライン配信では作品上演の他に、カンファレンスやZoomを使用したワークショップなどのプログラムが行われました。

竹中香子
『「民主的演技」を考えるワークショップミーティング』

「演技」というもの、あるいは、演技が生まれる「現場」を、社会背景とセットで考えてみようという企画。多文化多民族国家であるフランスの演劇教育、及び劇場の役割を紹介したのち、多文化多民族国家に求められる「民主的」演技のかたちを考えるワークショップの実践を行う。参加者とともに、人々の多様性を認識することを目的とした、学修者主体の演劇教育現場、および、主体性を獲得した俳優たちが可能とする「民主的」な創作現場の条件を考える。

ワークショップ内容
1. フランス国立高等演劇学校における演劇教育の紹介(約30分)
2. 「わたしとあなたは違う」を知覚するためのワークショップ実践（約65分）Zoomブレイクアウトルーム機能を使用した参加型ワークショップ。
3. 日本における「民主的」な演技が生まれる創作現場を考えるミーティング（約45分）あらかじめ参加者から募集した演劇の創作現場及び教育現場における「モヤモヤ」を他の参加者とも共有し、「モヤモヤ」との新しい付き合いや解消方法を模索する。

公演概要
オンライン日程：9月17日（木）～19日（土）

講師：竹中香子

竹中香子
1987年生まれ、埼玉県出身。2011年、桜美林大学総合文化学群演劇専修卒業。2013年、日本人としてはじめてフランスの国立高等演劇学校の俳優セクションに合格し、2016年、フランス俳優国家資格取得。パリを拠点に、フランス国公立劇場の作品を中心に多数の舞台に出演。第72回アヴィニヨン演劇祭、公式プログラム(IN)作品出演。2017年より、日本での活動も再開。一人芝居『妖精の問題』(市原佐都子 作・演出)では、ニューヨーク公演を果たす。日本では、さまざまな大学で、自身の活動に関する特別講義を行う。2020年秋からは、フランス演劇教育者国家資格取得のための2020年度研修クラスに参加し、演劇公演と並行し、演劇教育を学ぶ。

劇作家女子会。
『劇作家による著作権との付き合い方勉強会：死後のライセンスについて』

2018年の著作権保護法の改正により、日本での原則的保護期間が50年から70年になりました。
劇作家女子会。は「死後に戯曲が残る劇作家」になることを目指し、それぞれ活動をしています。わたしたちにとって、著作権保護期間のこと、その延長のこと、自分の死後のことは重大な問題です。
「わたしの死後を生き抜く戯曲のために、わたしは生前どのような準備をしておくといいのだろうか。」
それを考えたくて、勉強会を開こうと思いました。
ゲストに著作権に造詣の深い弁護士の福井健策氏を、パネラーに演出家の川口典成氏と黒澤世莉氏をお呼びして、著作権について考えを深める会をつくります。

公演概要
オンライン日程：9月10日（木）

ゲスト：福井健策氏（弁護士・日本大学藝術学部 客員教授）
パネラー：川口典成氏（ドナルカ・パッカーン）
パネラー：黒澤世莉氏（日本演出者協会）
劇作家女子会。：
坂本鈴　黒川陽子　オノマリコ　モスクワカヌ

劇作家女子会。
2013年、黒川陽子、坂本鈴、オノマリコ、モスクワカヌが「死後に戯曲が残る作家になる」ということを目標に掲げて集結。
2013年6月、短編集『劇作家女子会！』にて初の演劇公演を行う。2016年7月『劇作家女子会R！－WORLD PREMIERE－』を開催。2017年5月、座・高円寺1にて4人の共作ミュージカル『人間の条件』を上演（演出：赤澤ムック、作曲：後藤浩明）。劇作家それぞれが現代社会の問題をあぶり出し、それを潰し合うことなくミュージカル化。新聞や演劇雑誌にとりあげられ、1000人以上の動員で成功をおさめる。

福井健策（弁護士・日本大学藝術学部 客員教授）
弁護士。ニューヨーク州弁護士。1991年、東京大学法学部卒業。米コロンビア大学法学修士課程修了。
骨董通り法律事務所 For the Arts 代表パートナー、日本大学藝術学部・神戸大学大学院客員教授。
専門分野は芸術文化法、著作権法。thinkC 世話人。国立国会図書館審議会・デジタルアーカイブ学会ほか委員・理事を務める。主な著書に『18歳の著作権入門』(ちくまプリマー新書)『著作権の世紀―変わる「情報の独占制度」』(集英社新書)など。

河村竜也（総合プロデューサー）

私を含むフリンジを運営するメンバーたちは、豊岡の自然や演劇を通じた様々な取り組みに惹かれ移住してきました。これからは大学もでき、さらにたくさんの若者がこの町に惹かれてやってきます。

私たちには５年でアジア No.1 のフリンジ型の国際演劇祭を目指すという目標があります。

アジアという枠組みをどう捉えるか、とか、そもそも国際とは？　など、この１年で様々な価値観が変わりつつあります。ですが私はむしろ変わろうとしていた世界に向かって加速したという見方の方に関心があります。
つまり「わざわざ足を運ぶ価値とは何か」がより問われる社会が急速に広がっており、私はその先の未来にこの演劇祭のことを考えています。

いずれにしても、わざわざ国内外から足を運んでいただく演劇祭になるためには、およそこの２つの魅力の掛け合わせが必要だと考えています。
・演劇祭そのものの魅力
・豊岡という「地」の魅力
前者は言い換えればプログラムの魅力。後者の方は、この演劇祭のポテンシャルの部分で、振り返れば、私たちはこの魅力を発信するために、たくさんの可能性を感じながら豊岡をフィールドワークしてきたと思います。リサーチを進める中で、豊岡の各観光名所だけでなく、海、山、川など、都市では味わえない屋外フィールドには特に強い関心が湧きました。

「屋外だと上演のハードルはある。だけど、まずはここで演劇やダンスを見てみたいかどうかで考えよう」

コーディネーターたちにはそのように声をかけてきました。
自分たちがそこで見たいかどうか。人におすすめしたい場所かどうか。
できない理由を探すのではなく、可能性や魅力の方に目を向けてリサーチしてきました。

フリンジへの応募は、全国から 65 団体ありました。感染症流行下で、ほとんど広報もできず、短期間の応募でしたが想定よりもずいぶん多い応募数でした。豊岡ではじまっている文化芸術の新たな風が全国に届いているともとれた一方で、都市の中で表現活動を続けていくことへのアーティストからの SOS ともとれました。

審査にあたり多くのアーティストの方々とコミュニケーションをとらせていただきました。
ですがその中身は多くが感染症対策のことで、ひと言でまとめるなら「交流の遮断」についてでした。表現芸術のオーガナイザーとして極めて異例の非常に心苦しい局面の連続でした。ですので、当初思い描いていた出会いがたくさん生まれるフリンジの姿からは程遠い第一回開催でしたが、そのような中であったからこそ、場を巡ることの尊さは際立ったように思います。それはほとんど巡礼のようだったとさえ言っていいと思います。
わざわざそこに足を踏み入れ、その地を歩むということ。
そこに、この地で演劇祭をすることの本質が詰まっていたのではないかと思います。
尊く、そして冒険のようなその歩みの価値を見据えながら、第二回開催に向けてまた準備を進めていければと思っています。

井坂浩（コーディネーター）

明日は明日の風が吹く。
昔から多くの人が希望のように、あるいは絶望から背を向ける時に使っていたような言葉が自分の中にも駆け抜けていったような気がします。

今回の演劇祭のフリンジにおいては、私が主に照明を中心としたテクニカルサポートを担当していたと記憶しております。
正直なところ、明日のスケジュールさえ「どうしたもんか？」と思い悩み、多忙すぎた日々の中で、私自身は誰もが気づくレベルでぼんやりかつ悶々としていたような気がします。

2020 年 4 月、東京に初めての不要不急の外出自粛要請が出ていたあの日曜日、ハイエース 1 台で東京から豊岡市内にこっそり引っ越してきました。
霞がかった演劇祭期間中の記憶とは対照に、トラック 1 台すら走っていない新東名高速道路を、断捨離の限りを尽くした残りカスの家財道具と、舞台照明家を名乗り始めてから少しずつ買い貯めたわずかな数の照明器具たちと、ひたすら西へ西へと向かっていたことを今でも鮮明に覚えています。
あの夜の道は暗かった。明日の風さえ吹いてなかった。

＊＊＊＊

そんな中で「豊岡演劇祭のフリンジ」においてテクニカルのサポートとして何が必要なのか？　という命題を考えていました。
そもそも論で私自身は海外の演劇祭には訪れたことはありません。
強いていうのであれば、私の経験においては、利賀村での SCOT サマー・シーズン、2019 年のシアター・オリンピックスが近い経験かと思いますし、若い才能をサポートにするという点では演劇人コンクール（利賀村・こまばアゴラ劇場）での経験の方が活かせるのではないかと考えていました。

演劇祭側にレンタル機材とかがあれば、もっと気軽に参加ができるのになぁ、と思った参加者の方、参加を検討された方も居たのではと推測しております。

あくまでも「日本式」「豊岡式」のフリンジの成立に向けて、その第 1 歩を踏み出したばかりと考えております。海外を模するだけでなく、柔軟な形で「諸外国が真似する」フリンジの形を模索していければと考えています。

５年後のアジア No １、10 年後の世界と肩を並べる演劇祭に向けて、試行錯誤してければと考えております。
長い目で、広い心で、見守ったり、参加したり、遊びに来て頂ければ幸いです。

豊岡は良い風が吹いてるのです。

熊谷裕子（コーディネーター）

大学在学中から劇団青年団に所属。建築の専門学校を卒業したのち、俳優、舞台監督の仕事をしながら二級建築士の資格を取得。青年団で長く舞台美術を担当している杉山至の補佐をしながら、子供向けや舞台美術のワークショップのコーディネート、屋内外でのイベント運営などをしてきました。６歳と２歳の子供と共に豊岡市に移住したことで、「こどもと共に居られる劇場、こどもと共に楽しむ演劇祭」を実現出来ないか模索中です。

第一回となる豊岡演劇祭では、まだまだ子供に焦点を絞った企画運営には辿り着けませんでした。まずはフリンジ公演を行うことで、どの地域にどんな場所があるのか、アーティストがどのように滞在・制作が可能なのか、を探ることになりました。幸か不幸か新型コロナウイルス感染症禍にあって、野外パフォーマンスの可能性をより探ることが重要な課題になったと思います。
当然のように、「フリンジとはそもそも何か？」という問いを抱えつつ、各団体と共に最後まで現場でのすり合わせを行いました。想定よりも多くの団体に応募していただいたことで、我々受け入れ側のリソースも不足し、至らない点も多かったのは事実。「フリンジって？」「コーディネートって？」という根本的な疑問を見失わず、来年以降も多くの団体や観客を受け入れるにはどうすればいいか、が大きな課題だと思っています。
実際に担当したのは、神鍋／江原／竹野でのフリンジ公演です。主にテクニカル面でのコーディネートでしたが、団体によっては当日運営にも同席しています。

まずは安全に公演を行うこと、野外においては天候に左右される状況への対処、そして感染症対策、という点には特に留意しました。安全も、天候も、感染症対策も、「これをやれば 100% 大丈夫」という際限がありません。今後もこの点については重きを置きながら、経験則や地域の方の協力を得て、スムーズな運営を目指したいと考えています。
同時に、この豊岡の地であればこそ実現できるパフォーマンスも多く、風景の豊かな豊岡市のポテンシャルをより引き出す企画運営が目標です。さらに、そこへ「こどもと共に楽しむ」という要素を少しずつ取り入れることが私自身の課題となっています。
地域の方の協力なしには実現しない企画であると、つくづく思い知らされる日々でした。多くの方のご協力に感謝します。

酒井一途 (コーディネーター)

豊岡市地域おこし協力隊・豊岡演劇祭コーディネーターとして、今年の春から豊岡市内に住み始めました。それまでは生まれ育った東京で 26 年暮らしてきたほか、ドイツの首都ベルリンに 1 年住んでいたことがあります。
豊岡市で演劇の活動をしているのはどんな人なのか、これまで何をしてきたのか、演劇祭の報告を兼ねて、この文章を通じてお伝えしてみようと思います。

＊

「東京でこれ以上生活できない」と思ったのが、豊岡市への移住の理由でした。逆のパターンのほうが、目にすることが多いかもしれません。「地方でこれ以上生活できない」と思って上京する。なぜなら地方には何もなくて、都市にはたくさんのものがあるから。でもたくさんのものがあるということは、便利さを生むと同時に、消費を過剰にします。外を出歩けば所狭しと貼られた広告、耳障りな宣伝。欲望を刺激して、次から次に消費を煽ってきます。そういう中で生活することは、僕にとっては自分自身が消費されていくような感覚でした。

外から見る豊岡市はいわば過渡期で、大きな動きの中にあると感じられました。市長が文化芸術に目をつけて、行政の中に組み込んで動くことは全国でも珍しく、地方創生を目指す多くの市町村から注目されています。教育に演劇を組み込むことも、豊岡市ほどの規模で行われていることは他になく、その事例に学ぼうとする行政や教育委員会からの視察が、絶えないと聞きます。ひと言でいえば、豊岡市はいま「おもしろい町」なのです。そしてこれからもっとおもしろくなっていく。豊岡市に集い始めている若い人たちは、その波に乗りに来たのです。

＊

とはいえ、町が変わっていくには、それまでの暮らしにも影響が生じてきます。豊岡演劇祭コーディネーターという僕の仕事は、その影響をすこしでもよいものにしていけるように、外から来るアーティストと、地域に住む方々やお店、施設とを結びつける役割だと思っています。
今年は自分で希望して、竹野の地域を担当しました。初めて足を運んだときに、町に、海に、人に、心がときめいたからです。まだ僕は豊岡市に住み始めたばかりですが、町に住んでいる人が仲介に立って、演劇祭の期間に外から来る人を案内すれば、よい化学反応を起こすことができるはずです。竹野では準備期間から多くの方々にお会いしてきました。

奥城崎シーサイドホテルの宴会場、竹野浜辺の岩場、鷹野神社、竹野浜、但馬漁協竹野支所、松正漁業の定置網漁の船の上のほか、竹野浜の下町と馬場町の回遊をしたのが、今年の竹野での演劇祭の会場でした。町を回る中で、中竹野地区コミュニティセンターや竹野南地区コミュニティ喫茶にもお邪魔して、お話をお伺いしました。竹野盆踊り振興会のみなさまには、演劇祭の作品への出演もしていただきました。状況が状況だったので、目立った活動をするわけにもいかず、演劇祭が竹野で行われていること自体も、広報の行き届かない部分がありました。そんな中でも力をお貸しくださった方々がいらしたおかげで、初めての豊岡演劇祭がよい形で開催できたのだと思っています。心から感謝しています。まだお会いできていない方にも、これからぜひお会いしてお話を伺っていきたいです。

＊

竹野で上演したアーティストたちにも、他のエリアと比べて特色がありました。巡業型の演劇作品ではなく、野外でのロケーションや地域の伝説にリサーチしたこの土地でしか作りえない作品を新たに作る方々が集ったのです。こうした形の上演が定期的にあることによって、演劇祭そのものはもちろん、地域自体が豊かになっていくと僕は思っています。

豊岡演劇祭は来年以降も毎年秋に行っていきます。関わり方はさまざまだと思いますが、秋の風物のひとつとして地域に根づいていくことを願っています。

松岡大貴 (コーディネーター)

フリンジ事業において、主に城崎、日高神鍋、但東の各エリアを担当致しました。
感染症流行下で演劇祭の開催自体が危ぶまれる中、公募を伴うフリンジの準備はさらに難航致しました。立ち上げである今年は、ただでさえ全てを一から準備する中、何も確定出来ない、したとしてもいつでも中止となるリスクの中、ご参加頂いたアーティスト・団体の皆様に感謝と敬意を表します。
同時に、受け入れて頂いた地元の皆様のおかげで開催する事が出来たのは、社交辞令などではなく紛れもない事実と感じています。
各地域で特にご協力頂いた皆様を、僭越ながら敬称略で列記させて頂きます。

城崎においては城崎温泉観光協会及び城崎温泉旅館協同組合、株式会社湯のまち城崎に大変ご協力を頂きました。小菅紘史×中川裕貴『山月記』においては温泉寺、天明留理子『城崎で聴く怪談話』においては城崎文芸館を会場とし、街中に出没する to R mansion『街角の恋人〜湯けむりサーカス編〜』においては山本屋、木屋町小路、さんぽう西村屋、ブックストア・イチ、三木屋など、各所を立ち寄り場所とさせて頂きました。
城崎では主に夜間にフリンジの演目を集中させナイトタイムエコノミーを意識した取り組みが行われました。

日高神鍋においてはまず日高神鍋観光協会にご協力頂き、神鍋各支部と連携して演劇祭参加団体の宿泊調整にご尽力頂きました。スキー合宿を初め、大学等の合宿を多く受け入れている神鍋において、演劇祭時も参加団体の “ 選手村 ” となるべく、一歩を踏み出すことが叶いました。
また、アップかんなべは theater apartment complex libido:、スペースノットブランク 2 団体の公演会場となり、冬季はスキー場となる雄大な風景の中で、まさに地域資源を生かした作品が発表されました。

合橋・高橋・資母の 3 地区で構成される但東においては、今回主に高橋振興対策協議会及び資母地区・坂野の皆様にご協力頂きました。
フリンジ参加団体の烏丸ストロークロックがフィールドワークを行い、地域の行事や伝わる歴史、伝承などを聞き取り等で調査し、成果をオンラインで発表しました。この取り組みは次年度も引き続き行われる予定で、2021 年度の演劇祭において一つの作品を発表する予定です。
フリンジ事業とは異なる連携があったことも紹介させて頂きます。豊岡市街地にある「とゞ兵」では兵庫県が行う “ アート de 元気ネットワークひょうご ” の事業を受け入れ、開催して頂きました。兵庫県各所のアートフェスティバルをつなぐ企画で、県内他所で展示されたアート作品の一部が演劇祭期間中「とゞ兵」に展示され、ご覧頂けるものでした。

但東町の地域おこし協力隊員が取り組む「たんたんプレーパーク」も、日高文化体育館の横にある防災公園で開催されました。“ リーダー ” をつとめる大人と一緒に、ダンボールを利用して家を建てたり木工

で椅子を作成したりする、子供の創意工夫を刺激するイベントでした。
フェスティバルの玄関口となった江原の駅前では“ナイトマーケット”のみならず、神鍋・浜坂・村岡の各道の駅による但馬物産の販売や、新温泉町の居組麒麟獅子舞保存会による公演も行われました。これらは今後豊岡演劇祭が但馬の皆様と連携するにあたり、端緒となる事例であったと思います。
上記以外にも多くの皆様のご尽力・ご協力で演劇祭は実現いたしました。改めて、心から御礼申し上げます。

最後に、私の立場で手前味噌になるのか分かりませんが、豊岡市大交流課、特に観光文化戦略室の情熱が本事業の推進力になったと、申し添えることをお許しください。

渡辺瑞帆（コーディネーター）

これまで建築で学問を修めて設計や空間デザインの仕事をしながら、住宅や文化財建築、展示空間や野外などでの公演やパフォーマンスに関わってきたのですが、2019年の6月にフライング的に豊岡市に引っ越してきたのは、それまであちこちで学んだり試したりしていたことが大規模に、総合的に起きる！と直感したからです。
こちらに来てからはあらゆる場所に出向き、多くの「ここで芝居が観たい」と思う風景や建築、それらの環境を支える魅力的な人々に出会いました。また、目標に掲げるフランスのアヴィニヨン演劇祭の視察にも行きました。歴史地区を中心に、30程の招待制の「IN」演目、1500程の自主公演制の「OFF」演目が高密度にひっきりなしに繰り広げられており、街の構造と歴史と芸術と観光の一体感に圧倒された一方、そのような総合的なかたちを目指すということは、豊岡市では必然的に全く違う道を辿らねばならないと感じました。豊岡市の良さは、竹野のエメラルドブルーの海、街全体で一つの大きな宿を形成する城崎温泉、カバンストリートや賑わいの多い豊岡市街地、アクティビティのメッカである神鍋高原、重伝建の城下町で芝居小屋の遺る出石町、田園と芸能が豊富な但東町と、さらにその周辺にも特徴の立った地域がゆるやかに集まっていることと、コウノトリ育む豊かな自然と人の営みが共生する姿にあります。始まったばかりの豊岡演劇祭のフリンジコーディネーターとしての役割は、その良さを裾野を広く様々なアーティストに引き渡し、生まれた表現をまた還元し、循環と蓄積をさせながら場を作っていくことだと思っています。
更に、お客様がどのようにこの機会を知り、来訪し、域内を移動できるか、そして楽しんでいただけるか、広報や交通の部分でも試行錯誤しました。
現代美術家の越後正志さんとの今回の協働では、江原駅前サンロード商店街のみなさんや友田酒造さん始め、たくさんの方のお力や技術をお借りできたことで『観測地点』が生まれました。私は劇団青年団に所属しており、江原河畔劇場のある江原駅周辺を活動拠点としているのですが、私自身の普段の生活や関係性も作品の一部になったような感覚があり、またこの場所が自然に作品として立ち現れたように見え、嬉しく思っています。また、山川陸さんの円山川沿岸を身体化するパフォーマティブ・フィールドワーク『三度、参る』では、動的に風景が共有されていたことにより、その対比でこの地の自然のダイナミズムを感じました。参加人数に限りがあったため、会期後も商店街で私が借りているスペースでアーカイブ展示を行い、演劇祭からの展開に一緒にチャレンジすることもできました。そこからまた新たな繋がりも生まれてきそうです。その他にもたくさんの作品やワークショップ、勉強会などに関わらせていただき、竹野では奥城崎シーサイドホテルの岩井社長、観光協会の嶋さん、盆踊り振興会のみなさまはじめたくさんのご協力をいただき、ありがとうございました。
本年は新型コロナウイルスにより世界中が未曾有の事態、安全な開催のため全てが手探り、暗中模索の状態となりましたが、そんな中でも一つひとつの取り組みを続けることが使命と思います。それらが多様な縁を生み、いつかは数え切れない程の作品が上演される場所になるよう、願っています。

加藤奈紬（事務局）

2020年の8月末、豊岡市に移住してきました。
もともと踊ることが好きで大学生になるまでは踊っていました。ですが、ダンサーでは食べていけないと思い、自分がどう表現の場に関わり続けることができるのかと模索し続けた結果、舞台制作者という居場所をみつけ、いまは自分の仕事としています。
制作者といっても私自身説明が難しいのですが、主に企画の立ち上げから進行調整、実践、振り返りまで、企画の全体に広く関わるような職責です。表舞台にこそほとんどでてくることはないのですが、全体をみながらプロジェクトの舵をとっていくとてもやりがいのある仕事だと私は感じています。
まだまだ舞台人としても制作者としてもヒヨッ子な私ですが、「演劇によるまちづくりが進む豊岡で新しい演劇祭をつくる」という言葉に惹かれ、東京の会社を辞めてやってきました。
第一回目となる豊岡演劇祭では、江原駅に拠点を構えたフェスティバルセンターに勤務し、滞在アーティストから演劇祭関係者、そしていらっしゃる地域の方、お客さまなど、様々な人の窓口となって演劇祭を見守るような気持ちで毎日を過ごしていました。
期間中、本当にたくさんの方にお会いし、これだけ「豊岡演劇祭」との接点が多種多様に広がっていることに驚き、同時に第一回の開催まで運んでくださった演劇祭事務局のみなさん、地域関係者のみなさんに感謝の気持ちでいっぱいになりました。本当に、ありがとうございました。
豊岡市へやってきた8月はとても気温が高く、まだ自分の車を持っていなかった私は市役所から貸してもらったコムスを汗だくになりながら豊岡市を北から南へ移動していました。
この暑い夏から涼しい秋へと変わる季節のなかで展開される豊岡演劇祭が、広大な自然とともに一歩一歩あゆみながら地域に愛され、根づき、継続していけることを願っています。

中原信貴（事務局）

豊岡演劇祭2020開幕直前の2020年9月より赴任しました、中原です。
私は東京音楽大学卒業後、ミュージカルやコンサートを軸として演奏・表現活動を行ってきました。
そのほか劇団歌唱指導や舞台劇伴奏（ピアノ）、英語リトミック講師等を経験後、2013年から海外に拠点を移しました。現在までヨルダン・フィリピン・チュニジアで音楽教育に携わってきたのですが、新型コロナウイルスの影響で、退避帰国することに。私自身だけではなく世界が今後どのような状態になっていくのか定かではない時期に、ご縁あって豊岡演劇祭実行委員会として演劇・芸術活動の運営事業に携わることになったのです。
正直なところ、7年ぶりの日本での仕事に加え、膨大な公演情報量と大勢の関係者、初めての豊岡での生活、さらに目まぐるしく変わる新型コロナウイルの状況に追いついていくのが精一杯でした。
その中で、私はフェスティバルセンター本部での業務や、城崎エリアでの現場管理を主に担当しました。フェスティバルセンターでは制作業務・応援スタッフのシフト管理を通じて、関係者同士の連携が円滑に行えるよう努めました。地域の方々や豊岡市外からの応援スタッフの方々と関わりを持つことができ、本当に多くの方々に支えられていることを肌で感じることができました。改めてご協力頂いた皆様に御礼申し上げます。また城崎エリアでの現場管理業務では、開演前の早い時間から待ち続けて下さっていたお客様や、回遊イベントに最後まで一緒についてきてくれたお客様、声を上げて喜んで下さっていたお客様など素敵な光景を目の当たりにして、この上ない喜びを感じました。沢山のお客様から、さまざまな反応を直接いただいたことで、この新型コロナウイルス流行下でも、多くの方が芸術を求めていることを改めて感じました。
来年の演劇祭ではどのようなドラマが待っているでしょうか？　今から楽しみで仕方がありません。
今後の展望としては、まずは豊岡の各地を巡りながら、地域社会へ溶け込むことを目標に少しずつ前進していきたいと思います。

Q｜ 9/11(金) - 9/13(日)
『バッコスの信女 - ホルスタインの雌』

マームとジプシー｜ 9/19(土) - 9/21(月・祝)
『てんとてんを、むすぶせん。からなる、立体。 そのなかに、つまっている、いくつもの。ことなった、世界。および、ひかりについて。』

東京デスロック｜ 9/10(木) - 12(土)
『Anti Human Education Ⅲ～ PANDEMIC Edit. ～』

中堀海都＋平田オリザ｜ 9/13(日)
室内オペラ『零（ゼロ）』

cigars｜ 9/12(土) - 9/13(日)
『庭にはニワトリ二羽にワニ』『キニサクハナノナ』

五反田団｜ 9/19(土) - 21(月・祝)
『いきしたい』

変わりゆく線｜ 9/20(日)
『四つのバラード』『diss__olv_e』

変わりゆく線｜ 9/20(日)
『四つのバラード』『diss__olv_e』

岩井秀人（WARE）｜ 9/12(土) - 9/13(日)
『いきなり本読み！ in 豊岡演劇祭』

青年団｜ 9/17(木) - 22(火・祝)
『眠れない夜なんてない』

青年団｜ 9/9(水) - 14(月)
『ヤルタ会談』

青年団｜ 9/19(土) - 21(月・祝)
『思い出せない夢のいくつか』

撮影：igaki photo studio

演劇祭と街の風景

城崎国際アートセンター

豊岡劇場（映画館）特別プログラム上映

大開通り｜豊岡

友田酒造展示｜江原

ナイトマーケット｜江原

記者会見｜江原河畔劇場

MMM（演劇祭グッズ販売）｜城崎

JR 電車内

全但バス

フェスティバルセンター｜江原

豊岡演劇祭 2020 フリンジ

フェスティバルディレクター：
平田オリザ

総合プロデューサー：
河村竜也

フリンジコーディネーター：
井坂浩
熊谷裕子
酒井一途
松岡大貴
渡辺瑞帆

事務局：
加藤奈紬
中原信貴

主催：
豊岡演劇祭実行委員会（事務局：豊岡市役所大交流課内）

豊岡演劇祭 2020 フリンジアーカイブス
2021 年 1 月発行

編集：
加藤奈紬
渡辺瑞帆

撮影協力：
igaki photo studio ｜ hi foo farm ｜井上亮二
板倉勇人｜小菅紘史｜嶋康太｜日高神鍋観光協会
福島健太｜三浦雨林

発行：
豊岡演劇祭実行委員会

冊子についてのお問い合わせ先：
豊岡演劇祭実行委員会
toyooka.theaterfestival@gmail.com